田野町文化財調査報告書第21集

永迫第2遺跡

ながさこ

県営農地保全整備事業八重地区
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告

1996

宮崎県宮崎郡田野町教育委員会

例　　言

1．本書は、平成６年度県営農地保全整備事業八重地区に伴い実施した、永迫第２遺跡の発掘調査結果を報告するものである。

2．調査は、国庫の補助ならびに宮崎県中部農林振興局の委託を受けて次の体制で実施した。

調査主体　田野町教育委員会

調査組織　田野町教育委員会

教　育　長	鍋倉　政信
社会教育課長	前田　久育
同補佐兼係長	長友　啓泰（平成６年度）
	川口　博文（平成７年度）
同　副主幹	長友カツ子（調査事務担当）
同臨時調査員	白岩　修（発掘調査担当）
同　主任	森田　浩史（文化財担当）
同　主事補	金丸　武司（文化財担当　平成７年度～）

3．発掘調査作業員として主に八重地区の皆様の参加を得た。

室内における遺物整理・報告書作成作業には[redacted]の補助を得た。

4．本書の執筆は石器を金丸、他を森田がおこない、森田が編集した。

5．執筆にあたっては、宮崎県文化課の岩永哲夫氏・都城市教育委員会の桑畑光博氏の助言を得た。

6．本書に用いた方位は磁北、標高は海抜絶対高を示す。

7．本書に用いた土色は、農林省農林水産技術会事務局監修の『標準土色帳』による。

8．本書に用いた略号（ＳＩ）は集石遺構、（ＳＣ）は土坑を示す。

本　文　目　次

第Ⅰ章　序　説 …… 1
　第1節　発掘調査に至る経緯 …… 1
　第2節　遺跡の位置と環境 …… 1
第Ⅱ章　調査の結果 …… 5
　第1節　調査の概要 …… 5
　第2節　検出遺構と出土遺物 …… 5
出土遺物観察表 …… 15

挿　図　目　次

第1図　町内遺跡分布図 …… 2
第2図　調査区周辺地形図 …… 4
第3図　基本土層柱状図 …… 5
第4図　調査区概要図 …… 9～10
第5図　遺構実測図（SI－01・02） …… 11
第6図　遺構実測図（SI－04・05） …… 12
第7図　遺構実測図（SI－06） …… 13
第8図　遺構実測図（SI－03・07） …… 14
第9図　遺物実測図（土器） …… 18
第10図　遺物実測図（土器） …… 19
第11図　遺物実測図（土器） …… 20
第12図　遺物実測図（土器） …… 21
第13図　遺物実測図（石器） …… 22
第14図　遺物実測図（石器） …… 23
第15図　遺物実測図（石器） …… 24
第16図　遺物実測図（石器） …… 25

写　真　図　版

調査着工直後遠景・ＳＩ－02検出状況 …… 26
ＳＩ－01検出状況・ＳＩ－01完掘状況 …… 27
ＳＩ－06検出状況・ＳＩ－04・05検出状況 …… 28
ＳＩ－07検出状況・ＳＩ－03検出状況 …… 39
縄文時代早期の出土遺物（土器） …… 30
縄文時代早期の出土遺物（土器） …… 31
縄文時代早期の出土遺物（土器） …… 32
縄文時代早期の出土遺物（土器） …… 33
縄文時代早期の出土遺物（土器） …… 34
縄文時代前期の以降出土遺物（土器） …… 35
縄文時代の出土遺物（石器） …… 36
縄文時代の出土遺物（石器） …… 37
縄文時代の出土遺物（石器） …… 38
縄文時代の出土遺物（石器） …… 39
縄文時代の出土遺物（石器） …… 40

第Ⅰ章　序　　説

第１節　発掘調査に至る経緯

八重地区では昭和63年度から県営農地保全整備事業を行っており、同年度から平成２年度にかけては前畑工区や砂田工区が対象となり、その破壊される部分について発掘調査を実施してきた。永迫第２遺跡が所在する永迫工区においては、平成３年度に工事着手の予定であったが諸般の事情により延期となった。試掘調査は平成２年度の末に県文化課によって行われ、縄文時代早期から古代の複合遺跡であることが確認されていたところである。その後、平成６年度事業として再度工事実施が予定され、平成６年７月に急きょ遺跡の保存について県中部農林振興局・県文化課・町農業整備課・町教育委員会の４者で協議し、再三にわたり調整を行った。結果、平成３年度の段階とほぼ同じ内容で、工事施工上やむをえず削平消滅する部分について、記録保存のための発掘調査を実施することとなった。同年９月７日付けで県中部農林振興局と委託契約を締結し、９月12日から現地における調査に着手した。調査は八重地区の皆様の協力を得ながら、同年11月30日に終了した。

第２節　遺跡の位置と環境

田野町は、宮崎市の西方約20kmの地点を中心とする田野盆地と、それを取り囲む鰐塚山ほかの山々からなり、１市（宮崎市）５町（清武町・高岡町・山之口町・三股町・北郷町）と接する。主な産業は、豊かな自然と肥沃な土壌を利用した農林業であったが、近年は高速道路、国道、県道等の整備によって交通の要衝の地となり、宮崎市や都城市のベットタウンとしてのニーズも高まり、また工業団地の整備により企業誘致にも積極的に取り組むなど、徐々にその姿を変えつつある。

八重地区は町の中心部から北西に約３kmの松山川左岸にある台地を中心に位置し、台地上では主に畑作が、谷地形部分においては稲作が営まれている。台地は四万十層群を基盤として主にシラス台地で構成されており、ＡＴや赤ホヤ等火山灰の堆積層が明瞭な状態で見られる。町内では化石が各地で採集されることで知られているが、八重地区も例外では無く、前畑第２遺跡の調査区付近においては貝類の化石が多量に発見された。

八重地区において最初に遺跡が発見されたのは、前畑第４遺跡（旧名称：前畑遺跡）で西都市在住の大野寅夫氏により表採された縄文時代早期の貝殻条痕文土器がきっかけとなった。これは、当時宮崎県総合博物館の学芸員であった茂山護氏によって復元され、現在も同博物館に所蔵されている。その後も地区内の各所で土器等が発見されていたが、既に報告済みの八重地区遺跡発掘調査や、平成元年度に実施した町内遺跡詳細分布調査の実施に

第１図　町内遺跡分布図

より、台地平坦部のほぼ全域にわたり埋蔵文化財の包蔵地であることが確認された。前畑第1遺跡・前畑第2遺跡・前畑第3遺跡・前畑第4遺跡・永迫第1遺跡・永迫第2遺跡・宮田遺跡・権現谷第1遺跡・権現谷第2遺跡・砂田遺跡などである。

旧石器時代は現在のところ明確な資料を確認していないが、縄文時代草創期は砂田遺跡の調査で爪形文土器が出土したほか、前畑第2遺跡においても発見されている。早期は今回報告する永迫第2遺跡を含め、全遺跡で確認されている。前期は権現谷第1遺跡で土坑に伴う土器片が出土している。中期と晩期については未発見であったが、後期は砂田遺跡で土坑に伴う土器片が出土している。弥生時代は、権現谷第1遺跡で後期の住居址が2件確認されたのみである。これ以降は極めて希薄であり、権現谷第2遺跡で布痕土器が表採され、永迫第2遺跡で同時代の土器が出土しているほか、前畑第2遺跡で時期不詳のU字状の溝と箱矢研堀の溝が確認されたのみであるが、歴史の古い集落であるとの伝承もあり、いずれ資料が増加するものと期待される。

以上のように八重地区の遺跡は殆どが縄文時代早期で占められる。これは耕作等による削平や攪乱が多少起因しているのであろうが、当地の歴史的環境を考える上でたいへん興味深い。

その他、周辺の遺跡としては、松山川により形成された深い谷を隔てた七野地区に所在する丸野第2遺跡・長薮遺跡などがある。丸野第2遺跡は縄文時代早期から後期と弥生時代後期の複合遺跡であり、弥生時代後期の竪穴住居跡が検出された。長薮遺跡は旧石器時代の遺物と縄文時代早・前期の遺構遺物が出土した。八重地区北方の野崎地区にも時代等の詳細は明確でないが、縄文時代を中心とする多数の遺跡が発見されている。

〔参考文献〕

「長薮遺跡概要」　田野町文化財調査報告書第7集　田野町教育委員会　1989

「田野町遺跡詳細分布調査報告書」
田野町文化財調査報告書第10集　田野町教育委員会　1990

「丸野第2遺跡」　田野町文化財調査報告書第11集　田野町教育委員会　1990

「田野町史～上巻～」　田野町史編纂委員会編　田野町　1983

「八重地区遺跡」　田野町文化財調査報告書第19集　田野町教育委員会　1994

第２図　八重地区遺跡周辺地形図

第Ⅱ章　調査の結果

第1節　調査の概要

本遺跡は、本来は平成3年度の事業予定区であったため、平成2年度の段階ですでに県文化課により試掘調査がおこなわれ、縄文時代早期の遺物包含層と平安時代の布痕土器が確認されていた。平成6年度に実施した発掘調査は工事設計上で切り土となる部分のみを対象とし、総面積は約10,000㎡に至った。

基本層位は上層から耕作土・赤ホヤ火山灰2次堆積腐蝕土・赤ホヤ火山灰・褐色土1（硬質）・褐色土2（やや硬質）・褐色土3・黄褐色土・褐色土4（やや粘質で礫混）である。遺物は第1・2層と4・5層から出土した。第2層は縄文時代前期以降と平安時代の土器片が出土したが、純然たる遺物包含層ではないようである。また、調査箇所によっては第4層上面まで既に開墾により削平されている。第4・5層は早期の遺物包含層で、第4層の下層から焼礫が見えはじめ、第5層中でピークとなり、結果的に第6層上面まで掘り下げて集石遺構を検出した。尚、第3層上面においても遺構検出をおこない、様々な形状の落ち込みを確認したが、埋没土や形状等から木根や耕作に伴う攪乱であるものと判断し、報文の中では省略した。

第2節　遺構と出土遺物

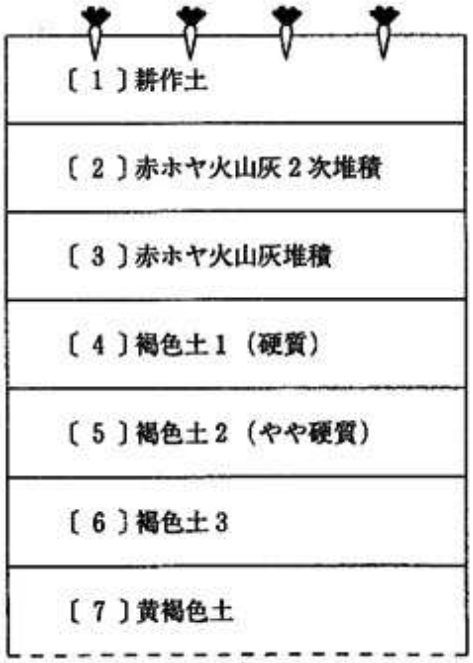
集石遺構が7基あるが前述のとおり、いずれも第5層から6層上面で検出したものである。SI－06からは土器片（35）が出土しており、他の集石遺構についても検出層位が同じであることから、いずれも縄文時代早期のものとみられる。

［SI－01］

110cm×150cmで深さ32cmの土坑を伴い、その中に3～18cmの赤変した礫がやや密に分布する。

［SI－02］

約100cm×110cmの中に2～19cmの赤変した礫がやや密に分布する。土坑を伴わない。



第3図　基本土層柱状図

[SI－03]

約110cm×160cmの中に3～12cmの赤変した礫がやや密に分布する。土坑を伴わない。

[SI－04]

約340cm×420cmの中に2～17cmの赤変した礫が密に分布する。土坑を伴わない。

[SI－05]

約120cm×130cmの中に2～16cmの赤変した礫が分布する。SI－04側は密に分布するが側はやや疎らであり、これに関連する散石状遺構の可能性もある。土坑を伴わない。

[SI－06]

約200cm×364cm中に2～10cmの赤変した礫が密な状態で分布する。土坑を伴わない。

[SI－07]

約110cm×126cmの中に2～9cmの赤変した礫がやや密に分布する。土坑を伴わない。

[下剥峰式土器]（1～18）

貝殻腹縁による刺突文を特徴とするもので、口縁部は大半が内湾するものであるが、直立するものもバリエーションとしてみられる。

（1～3）は口縁部がかなり内湾するもので、口唇部をやや丸みをもった面でおさめるもの（1）と、平坦な面でおさめるもの（2）と、面をもたずに丸くおさめるもの（3）とがある。（1・2）はほぼ縦位の（3）は横位の貝殻刺突線文を施す。

（4・5）は口縁部がやや内傾するもので、（4）のみ口唇部を平坦な面でおさめる。（4）は羽状の貝殻刺突文と横位の貝殻刺突線文、（5）はやや斜位と横位の貝殻刺突線文を組み合わせるものである。⑿は（4）と同タイプの破片とみられる。

（6・7）は口縁部がほぼ直立するもので、口唇部をやや丸みをもった面でおさめる。いずれもナデにより内側のみ湾曲させる。縦位と横位の貝殻刺突線文を組み合わせるが、他のタイプよりも施文が密である。（8・9）は（7）と同一個体もしくは同タイプのものとみられる。

（17・18）は底部である。⒅は横位の貝殻刺突線文を施すもので、（3・4・5）のいずれかのタイプとみられるが小片であるため詳細は不明。

[押型文土器]（19～38）

楕円文は4点（25～28）のみで、他はすべて山形文である。また（24）のみ口縁部内面直下に外面と同様の施文がみられる。口縁部は（25）のみ外反し、端部は丸みをもっておさめるもの（20～22・25）と、やや平坦な面をもつもの（19・23・24）とがある。

[条痕文土器]（39～52）

（40）は不定方向の貝殻条痕を密に施す。（41）は内面のみ貝殻条痕が見られる。（42～44）は縦方向と横方向の条痕を組み合わせて施す。（47）は口唇部を平坦な面でおさめるもので、口縁部直下よりやや間隔をあけて横方向の貝殻条痕を施す。（48）は内外面ともに密な貝殻条痕を施す。（50～52）は明らかに文様を意識した貝殻条痕がみられ、桑ノ丸式土器の一群であろうと考えられる。

［撚糸文土器］（58）

縦方向の撚糸文を横位に施文する。明瞭ではないが文様帯と無文帯を分ける。

［前期の土器］（59～61）

（59・60）は低いミミズバレ状の突帯を施文する轟式土器で、（59）は地文に縦方向の条痕がみられる。（61）は口唇部に浅い連続押圧文、内面直下と外面に平行沈線文を施す曽畑式土器である。

［中期の土器］（62・63）

（62）は貼付突帯上に刺突文をめぐらす。外面の地文と口縁部内面直下には撚糸文を施す。

［晩期の土器］（64・65）

（64）は胴部でくの字形に内湾して口縁部にかけて開くもの、（65）は外面のみナデによるわずかな変化をつけ内湾しないもので、いずれも調整等は荒く粗製である。

［古代の土器］（71～73）

いずれも内面に繊維の圧痕を残すいわゆる布痕土器である。

［その他の土器］

（67・68）はいずれも細片であるが特に（68）は縄文時代草創期の爪形文土器である可能性がある。（69）は横位と縦位の貼付け突帯が現状においてT字状にみられるが、細片であるため詳細は不明。

［石　鏃］（第　図74～102）

石鏃類は全体で29点出土しており、完成品22点、未製品７点である。完成品のうち完形で残存しているものは９点である。石材の内訳は、黒曜石13点（乳白色のもの１点を含む）、チャート７点、流紋岩４点、サヌカイト質安山岩３点、玉髄２点と多岐にわたる。完成品を形態分類すると、平基で三角状を呈するもの２点（78、95）、凹基で抉りが比較的浅くなるもの８点（74、76、79、80、　81、84、87、92、９3）、凹基で抉りの深いもの11点（75、77、85、86、88、89、90、91、94）、脚部が外湾するもの１点（82）に分別される。

［二次加工剥片］（第　図103～106）

薄手の剥片の一端に調整を行なったもの（103、106）と、厚手の剥片に面的な剥離を施

したもの（104、105）に分類され、どちらも石鏃の製作の初期段階のものと考えられる。103、106は流紋岩、104、105はチャートである。

［スクレイパー］（第　図107）

礫面除去の際に作出された厚手の剥片の下端部と側縁に小規模な剥離を粗雑に施したものである。石材は流紋岩である。

［磨　石］（第　図108～118）

砂岩や安山岩などの円礫を使用している。108、111、112、115、118には敲打痕が認められ、114には使用の際生じたと思われる小規模な剥離痕、116には擦痕が残される。また、どれも外面が摩滅している。

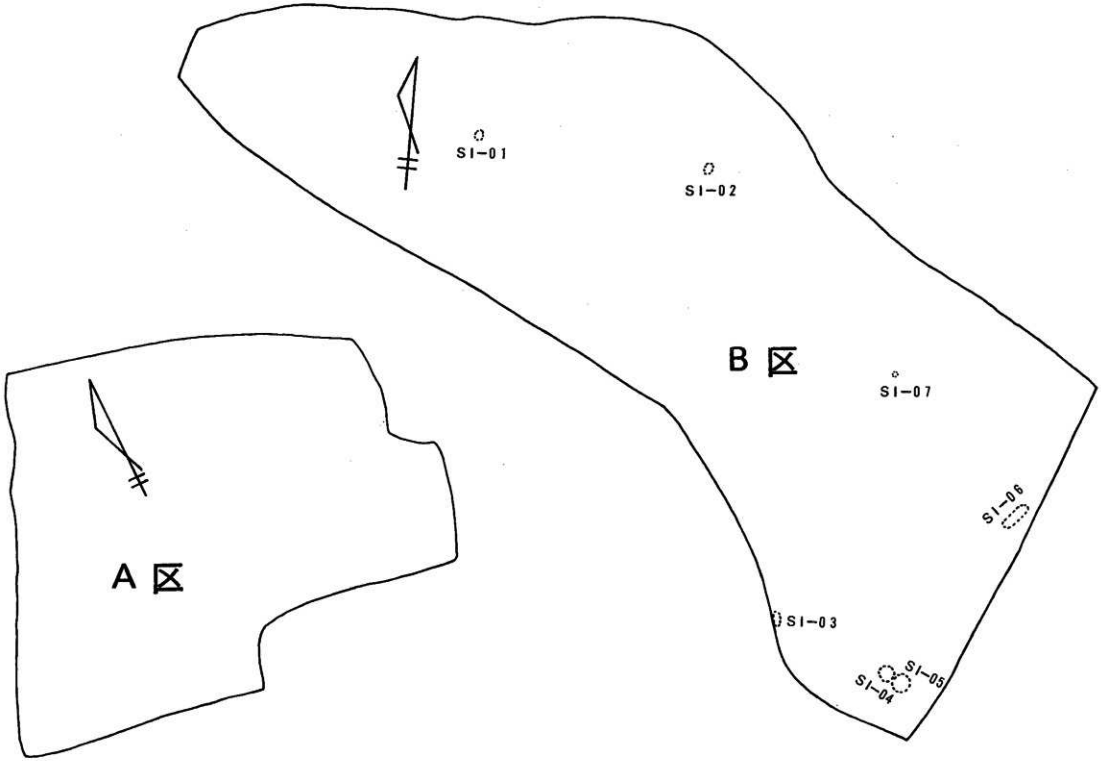
［用途不明石器］（第　図119）

火山岩系の円礫である。質量が大きく、使用痕は認められない。用途は不明である。

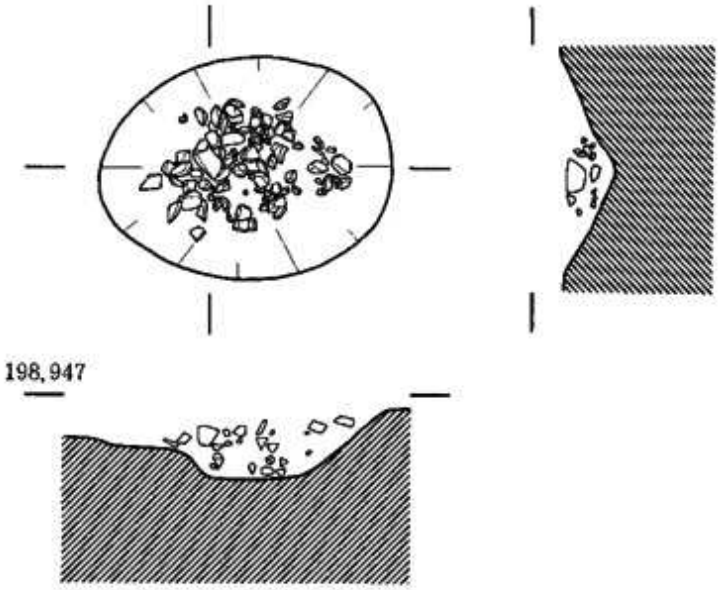
［石　皿］（第　図120、121）

120は扁平な川原石を転用しており、凹部に使用痕が認められる。121は火山岩系の平坦面を利用したものであろう。どちらも破砕している。

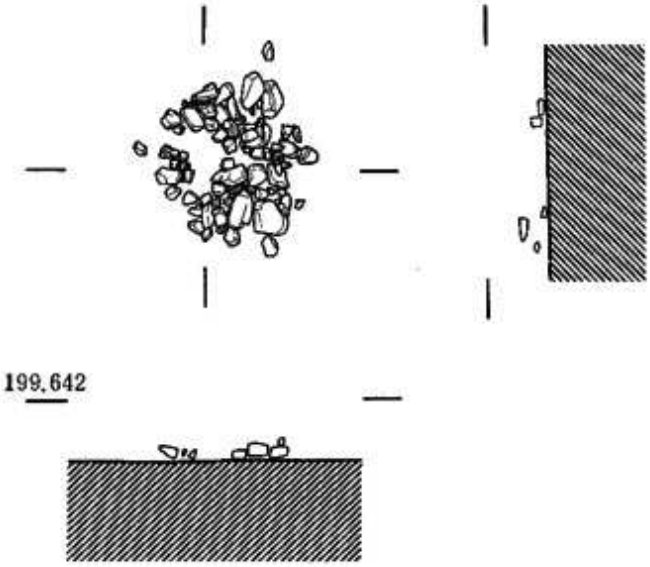
調査の結果、縄文時代草創期・早期・前期・中期・後晩期と古代の複合遺跡であることを明らかにすることができた。しかし遺構は早期の集石遺構のみで他の時期・時代のものは無く、遺物の出土量も早期が大部分を占める。中でも下剥峰式土器と押型文土器が多くみられ、これらの出土状況などから早期の中葉を中心とする遺跡であると推察される。前期以降については、遺物包含層がほとんど残存せず、出土資料の少なさに影響しているようである。他の八重地区の遺跡についても同様の傾向がみられるが、いずれにせよ同地域における最も賑やかな時代が縄文時代の早期であったことは否定できない。



第４図　調査区概要図

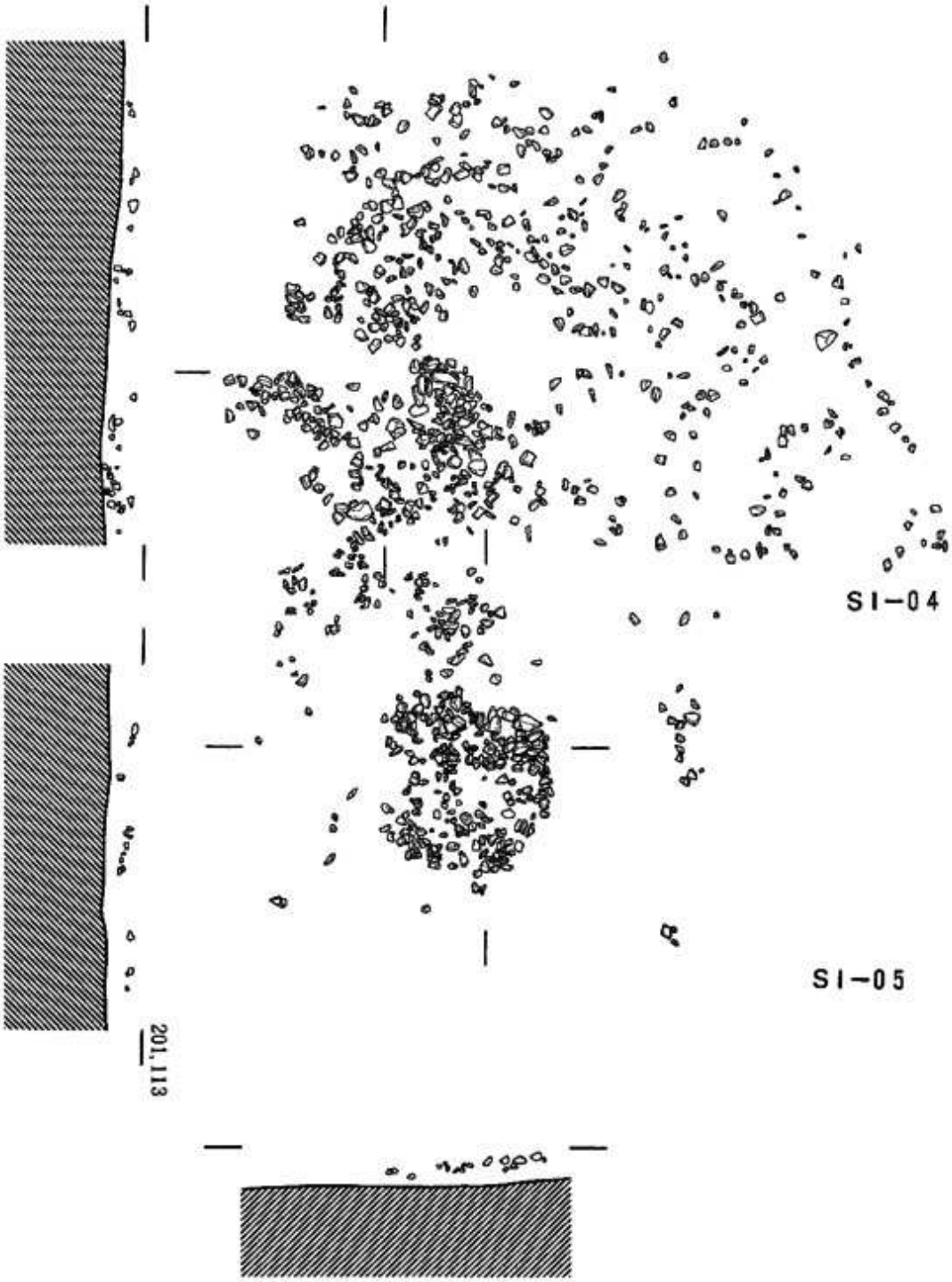


SI−01

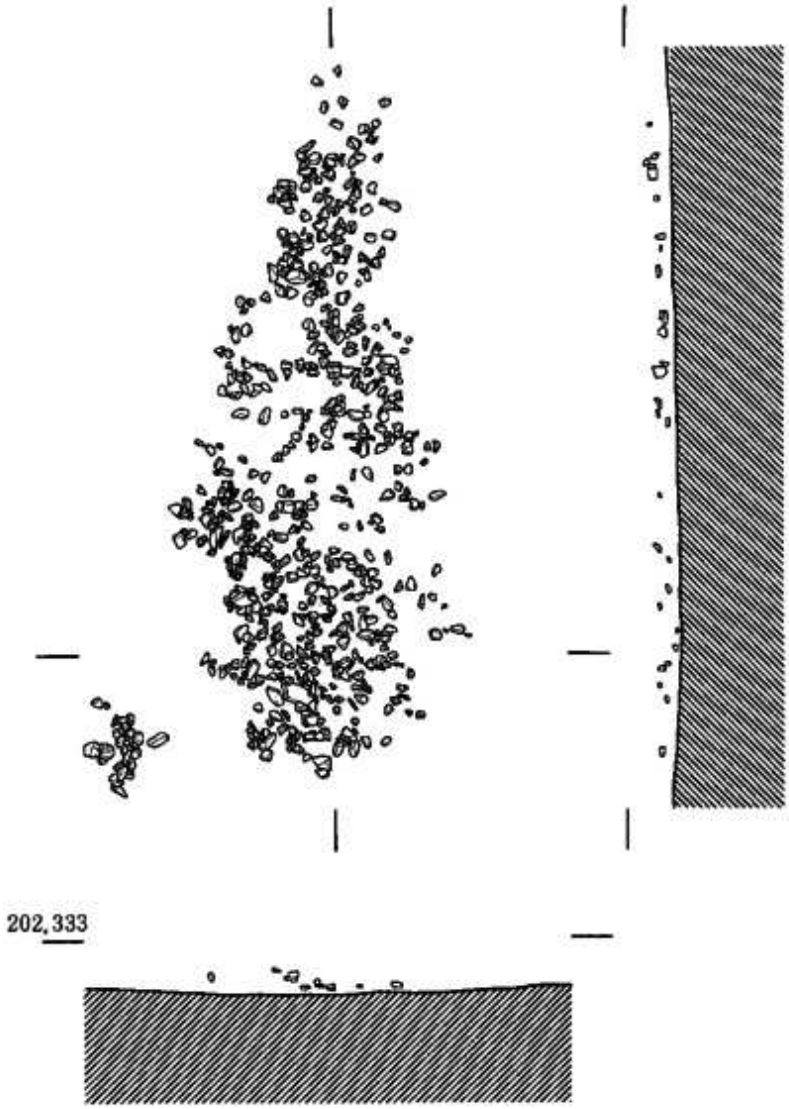


SI−02

第5図　遺構実測図（SI−01・02）S=1/40

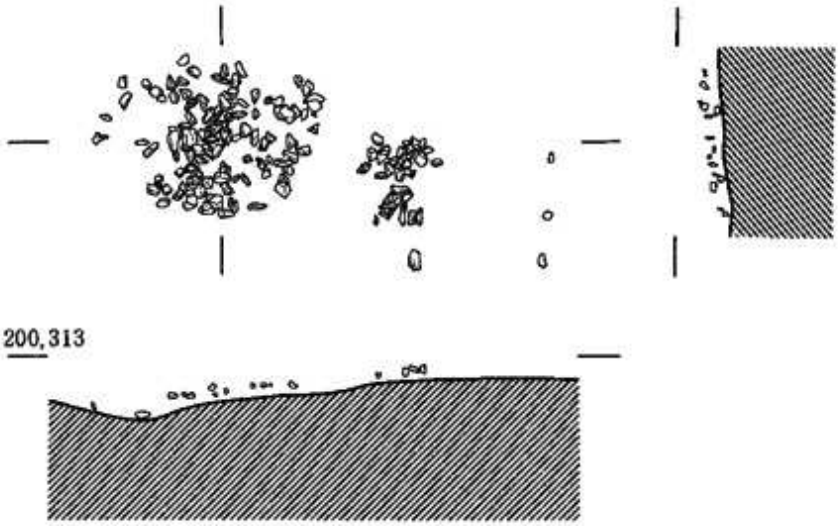


第6図　遺構実測図（ＳＩ－０４・０５）Ｓ＝1／40

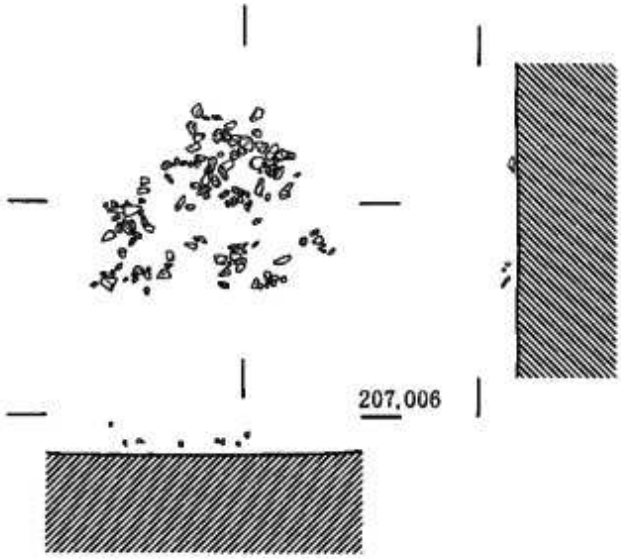


SI－06

第7図　遺構実測図（ＳＩ－０６）Ｓ＝1／40



SI−03



SI−07

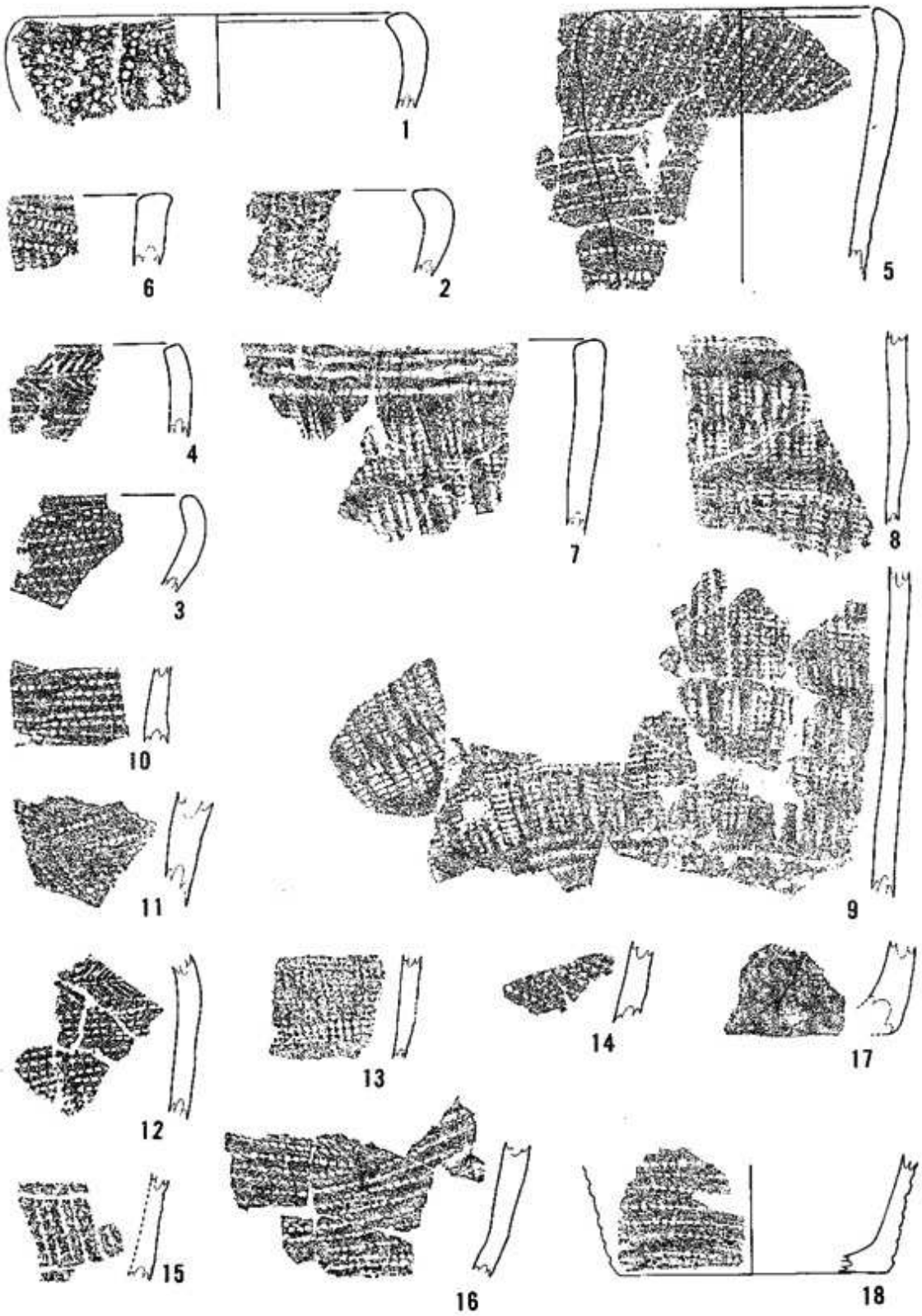
第8図　遺構実測図（SI−03・07）S=1/40

遺　物　観　察　表

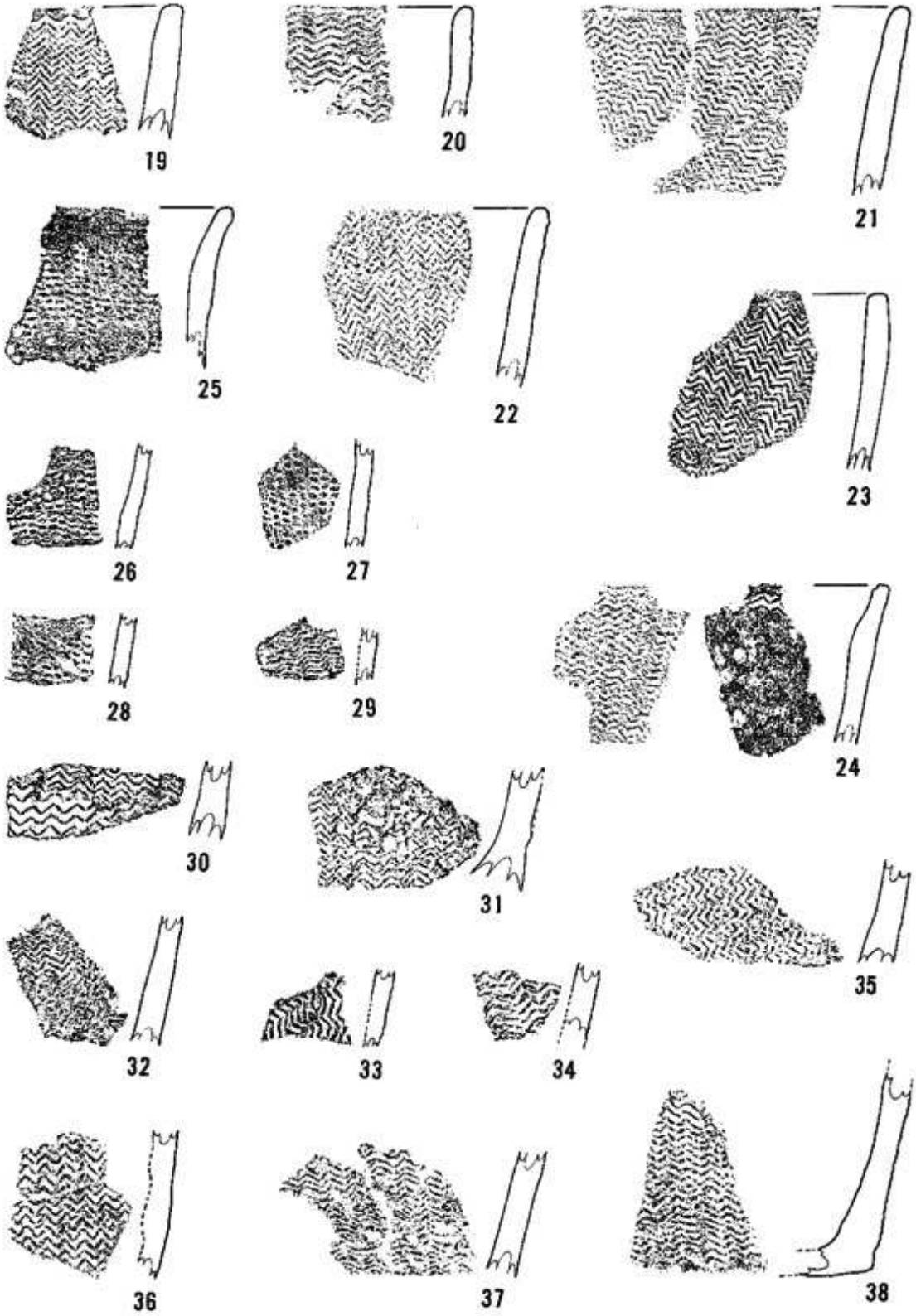
遺物番号	出土位置	器種	部位	文様及び調整 外面	文様及び調整 内面	焼成	色調 外面	色調 内面	胎土	備考
1	第5層		口縁部～	貝殻刺突線文	ヨコケズリ	やや軟	2.5Y6/2 灰黄色	2.5Y6/2 灰黄色	石英、1mm位の白色粒多量	
2	〃		〃	〃	〃	〃	2.5Y6/2 灰黄色	2.5Y6/2 灰黄色	〃	
3	〃		〃	横方向の貝殻刺突線文	ヨコミガキ	やや良好	2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y7/2 灰黄色	1mm位の白色粒を多量、長石を少量	
4	〃		〃	羽状の　〃	〃	〃	5YR6/4 にぶい橙色	5YR5/3 にぶい赤褐色	石英と1mm位の白色粒を多量、角閃石を少量	
5	〃		〃	斜位と横位の貝殻刺突線文	ヨコケズリ	ふつう	10YR6/2 灰黄褐色	10YR6/2 灰黄褐色	黒雲母と1mm位の白色粒を多量	
6	〃		〃	貝殻刺突線文		やや良好	10YR7/3 黄橙色	10YR6/2 灰黄褐色	黒雲母と1mm位の白色粒多量、砂粒少量	
7	〃		〃	ミガキののち貝殻刺突線文	ヨコケズリ	やや軟	10YR5/2 灰黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	石英黒雲母多量、軽石少量	
8	〃		〃	横位の貝殻刺突線文	ヨコケズリ　斜ケズリ	ふつう	7.5YR4/3 褐色	7.5YR5/2 にぶい黄褐色	石英黒雲母、砂粒多量	
9	〃			ミガキののち貝殻刺突線文	ヨコケズリ	やや軟	10YR5/2 灰黄褐色	10YR4/2 灰黄褐色	石英黒雲母多量、軽石少量	
10	〃			ヨコミガキののち貝殻刺突線文	ヨコミガキ	やや良好	2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y6/2 灰黄色	1mm位の白色粒多量、長石少量	
11	〃			羽状の貝殻刺突線文	ヨコケズリ	ふつう	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	黒雲母、1mm位の白色粒多量、軽石少量	
12	第2層			羽状と横位の貝殻刺突線文	ヨコケズリ	ふつう	10YR7/4 にぶい黄橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色		
13	第5層			貝殻刺突文（押引き）	ヨコミガキ	ふつう	7.5YR7/4 にぶい橙色	10YR5/2 灰黄褐色	長石1mm位の白色粒多量、角閃石黒雲母少量	
14	〃			ヨコミガキののち横位の貝殻刺突線文	〃	やや良好	2.5Y7/2 灰黄色	2.5Y6/2 灰黄色	1mm位の白色粒多量、長石少量	
15	第2層			ミガキののち貝殻刺突線文		やや軟	5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR5/2 灰褐色	1mm位の白色粒多量、長石少量	
16	第5層			ヨコナデののち横位の貝殻刺突線文	ヨコミガキ	ふつう	2.5Y6/3 にぶい黄色	2.5Y7/2 灰黄色	〃　〃	
17	第2層		底部付近	文様の詳細は不明	ミガキ	やや良好	7.5YR5/3 にぶい褐色	5YR5/3 にぶい赤褐色	黒ウンモ1mm位の白色粒多量、軽石少量	
18	第5層		～底部	横方向の貝殻刺突線文	ヨコケズリ	やや軟	7.5YR5/3 にぶい褐色	7.5YR5/3 にぶい褐色	長石、1mm位の白色粒多量、黒雲母砂粒少量	
19	第2層		口縁部	山形押型文		良好	2.5Y7/4 浅黄色	2.5Y8/3 淡黄色		
20	第5層		〃	横方向の山形押型文	ヨコケズリ	ふつう	5YR7/8 橙色	5YR7/8 橙色	角閃石、長石1mm位の白色粒多量	
21	〃		〃	斜方向の山形押型文	ヨコケズリ　ヨコナデ	やや良好	7.5YR7/4 にぶい橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	長石、1mm位の白色粒多量、角閃石少量	
22	第4層		〃	横方向の山形押型文	ヨコケズリ	ふつう	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	長石、1mm位の白色粒多量、角閃石砂粒少量	
23	〃		〃	斜方向の山形押型文	ヨコケズリ　ヨコナデ	〃	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	〃	

24	第4層		口縁部	横方向の山形押型文	ヨコナデ	ふつう	10YR6/3 にぶい黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	長石、角閃石、1mm位の白色粒多量黒曜石片少量	
25	第5層		〃	小粒の楕円押型文	ヨコケズリ	やや軟	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	〃	
26	〃			横位小粒の楕円押型文	ヨコナデ	〃	7.5YR8/3 浅黄橙色	2.5Y8/3 淡黄色	〃 軽石少量	
27	〃			〃	ヨコケズリ	ふつう	2.5Y8/4 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色	角閃石多量、長石、1mm位の白色粒少量	
28	〃			〃	〃	〃	7.5YR8/6 浅黄橙色	5YR7/4 にぶい橙色	〃 長石少量1mm位の白色粒少量	
29	第4層			横位の山型押型文	剥落	〃	7.5YR8/4 浅黄橙色	7.5YR8/4 浅黄橙色	長石多量、角閃石黒曜石片少量	
30	第2層			〃		〃	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色		
31	第5層		底部付近	〃		やや軟	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/3 淡黄色		
32	〃			〃	ヨコケズリ	〃	5YR7/6 にぶい橙色	10YR7/2 にぶい黄橙	角閃石黒曜石片、長石、砂粒1mm位の白色粒多量	
33	〃			横位の山形押型文		やや軟	7.5YR8/4 浅黄橙色	2.5Y7/3 淡黄色	角閃石、長石1mm位の白色粒多量	
34	〃			〃	ヨコケズリ	ふつう	5YR7/4 にぶい橙色	5YR5/3 にぶい赤褐色	角閃石、長石多量1mm位の白色粒少量	
35	SI－06			縦位の山形押型文	ヨコナデ	〃	7.5YR8/6 黄橙色	7.5YR7/3 にぶい橙色	長石多量、角閃石砂粒少量	
36	第5層			縦位の山形押型文	剥落	やや軟	2.5Y8/4 淡黄色	2.5Y6/2 灰黄色	角閃石少量、長石砂粒1mm位の白色粒多量	
37	〃			〃	ヨコケズリ	〃	10YR8/4 浅黄橙色	2.5Y6/2 灰黄色	長石、角閃石1mm位の白色粒多量、砂粒少量	
38	第4層		底部	〃 底部網代痕	ヨコナデ	〃	2.5Y8/4 浅黄色	2.5Y8/3 浅黄色	砂粒長石多量、角閃石少量	
39	第3層			斜方向の茶痕	横二枚貝条痕	〃	7.5YR5/3 にぶい褐色	5YR5/3 にぶい赤褐色	黒雲母1～2mmの白色粒多量	
40	第5層			二枚貝条痕（多方向）	ケズリ	〃	2.5Y8/4 淡黄色	2.5Y8/6 黄色	角閃石1mm位の半透明の粒多量	
41	第2層			剥落により不明	二枚貝条痕	やや良好	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR8/4 浅黄橙色	角閃石、長石少量1mm位の白色粒多量	
42	第5層			縦方向二枚貝条痕ののち横方向二枚貝条痕	ヨコケズリ	ふつう	5YR7/2 灰白色	2.5Y8/3 淡黄色	角閃石、軽石1mm位の白色粒多量、長石少量	
43	〃			斜方向の二枚貝条痕	ケズリ	やや良好	2.5Y8/4 浅黄色	2.5Y8/3 淡黄色	角閃石、長石多量、軽石少量	
44	〃			縦二枚貝条痕ののち横二枚貝条痕	ヨコケズリ	ふつう	2.5Y8/3 淡黄色	10YR8/4 浅黄橙色	黒雲母1～2mm位の半透明の粒多量	
45	第2層			多方向条痕	ヨコナデ	〃	10YR6/4 にぶい黄橙色	7.5YR7/4 にぶい橙色	黒雲母1mm位の白色粒多量	
46	〃			縦条痕ののち横斜条痕	ヨコナデ　タテ条痕	やや軟	10YR8/3 浅黄橙色	10YR7/4 にぶい黄橙色	長石少量1mm位の白色粒多量	
47			口縁部～	ヨコナデののち横条痕	ヨコナデ	やや良好	10YR7/3 にぶい黄橙色	7.5YR8/3 浅黄橙色	石英少量、長石、砂粒多量	
48	第5層		〃	横方向ヘラ状工具による条痕ののち撫紋	ヨコ貝条痕→ヨコナデ→ヨコ貝条痕	ふつう	2.5YR4/6 赤褐色	2.5YR3/6 暗赤褐色		

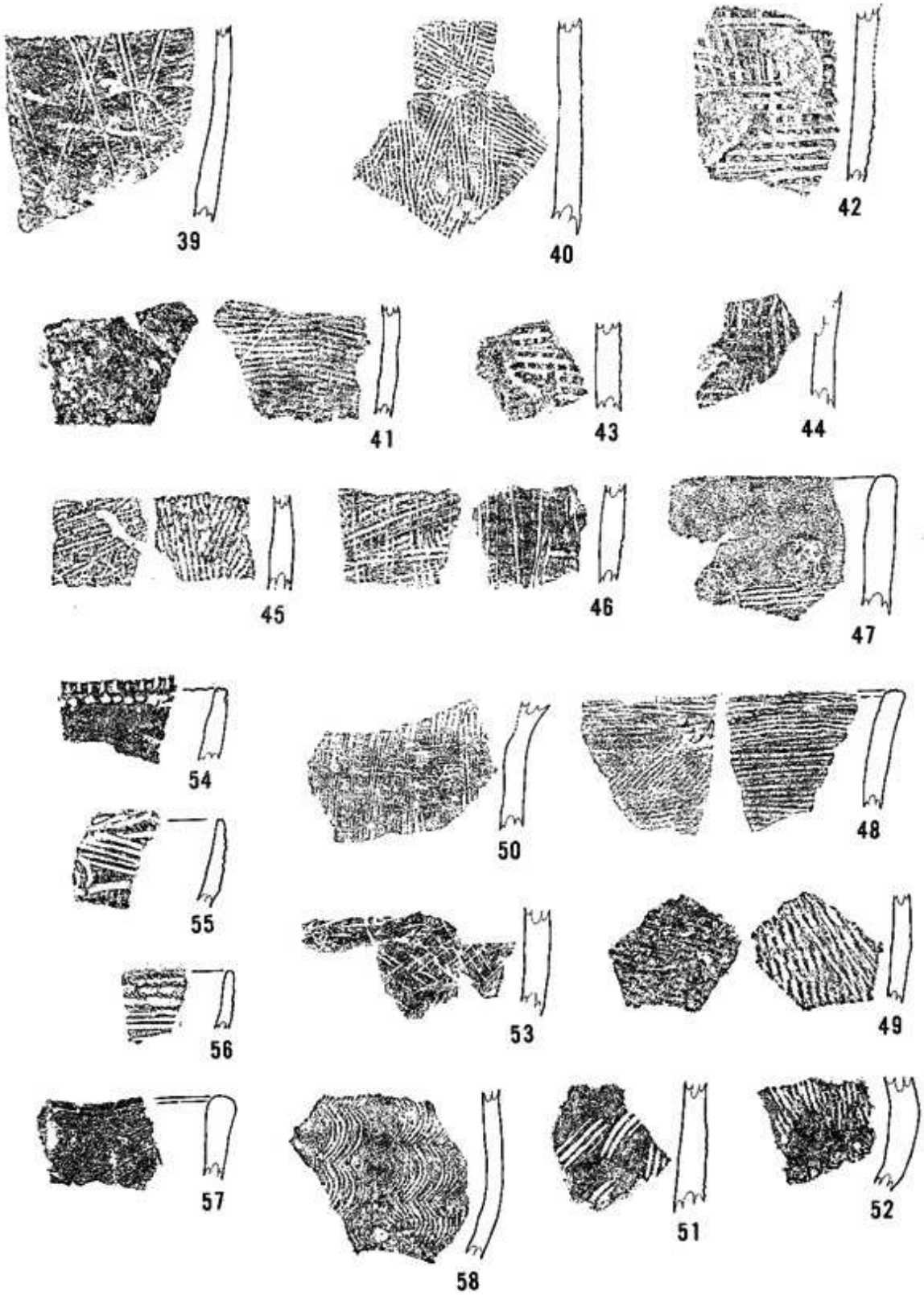
49				縦方向の貝殻条痕ののちミガキ	ヨコ貝条痕	ふつう	2.5YR5/6 明赤褐色	5YR6/4 にぶい橙色	角閃石、長石1mm位の白色粒多量	
50	第2層			横方向のナデののち縦方向条痕	〃	やや軟	10YR4/3 にぶい黄褐色	2.5Y5/3 黄褐色	長石、砂粒1～3mm位の白色粒少量	
51	第5層			貝殻条痕文	ケズリ	ふつう	2.5Y6/2 灰白色	10YR7/3 黄橙色	長石、1mm位の白色粒と1mm位の黄色粒多量	
52	〃			〃	ヨコミガキ	〃	5YR6/6 橙色	5YR4/2 灰褐色	長石、1mm位の白色粒多量、角閃石少量	
53	トレンチ5				ヨコケズリ	良好	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	1mm位の白色粒多量、黒雲母少量	
54	第2層		口縁部～	口唇部押圧キザミ外面直下に斜突文	ヨコミガキ	ふつう	2.5YR8/3 淡黄色	2.5Y7/3 浅黄色		
55			〃	凹線文とごく浅いキザミ	〃	良好	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙		
56	第5層		〃	ヨコナデののち隆帯文、刺目	ヨコナデ	〃	5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/6 橙色	長石多量1mm位の白色粒少量	
57	第4層		〃	ヨコナデ	ヨコミガキ	やや良好	2.5Y7/3 浅黄色	10YR7/3 にぶい黄橙色	石英黒雲母多量、角閃石少量	
58				撚紋		良好	2.5Y8/3 淡黄色	10YR7/3 にぶい黄橙色	黒雲母多量、白色黄色粒混入	
59	第2層		口縁部～	縦方向からの条痕ののち凸帯	ヨコ貝条痕	やや良好	10YR8/4 浅黄橙色	2.5Y5/2 暗灰黄色	長石、軽石少量、1mm位の白色粒多量	
60			〃	ヨコナデから断面△凸帯	貝条痕ののちナデ	やや軟	5YR2/1 黒褐色	5YR7/6 橙色	石英、軽石少量、1mm位の白色粒長石多量	
61	第2層		〃	横方向の沈線	ヨコ方向の沈線	ふつう	2.5Y8/4 淡黄色	2.5Y8/3 浅黄色	1mm位の白色粒少量	
62			〃	貼付突帯上に棒状工具による刺突文、地文は撚紋、口唇部から内面直下に撚紋		やや軟	5Y8/3 淡黄色	2.5Y8/4 淡黄色	石英1mm以下の白色粒多量砂粒少量	
63	第2層				ヨコケズリ	やや良好	2.5YR6/6 橙色	5YR6/6 橙色	石英多量、長石1mm位の白色粒少量	
64	第4層			ヨコミガキ	ヨコミガキ	〃	2.5Y7/2 灰黄色	10YR7/2 にぶい黄橙色	長石多量、軽石角閃石1mm位の白色粒少量	
65	第2層		口縁部～			良好	10YR7/4 にぶい黄橙	10YR7/4 にぶい黄橙		
66	第5層			ヨコミガキ	ヨコケズリ	やや良好	2.5Y7/3 浅黄色	2.5Y8/2 灰白色	角閃石、長石少量	
67	第2層					良好	10YR7/4 にぶい黄橙色	10YR8/4 浅黄橙		
68	第4層			瓜形文	ヨコケズリ	ふつう	2.5Y8/3 淡黄色	2.5Y7/2 灰黄色	長石1mm位の白色粒多量	
69	第2層			蓋Bヨコナデ凸帯	ヨコ二枚貝条痕	やや軟	7.5YR6/4 にぶい橙色	7.5YR6/4 にぶい橙色	長石多量、角閃石少量	
70	第4層			ヨコケズリ	ヨコ条痕	やや良好	10YR8/3 浅黄橙色	10YR8/3 浅黄橙色	長石、砂粒1mm位の白色粒少量	
71				布痕土器		やや軟	7.5YR7/4 にぶい橙色	7.5YR7/6 橙色		
72				〃		〃	5YR7/6 橙色	2.5YR7/6 橙色		
73			口縁部	〃			5YR7/6 橙色	2.5YR6/6 橙色		



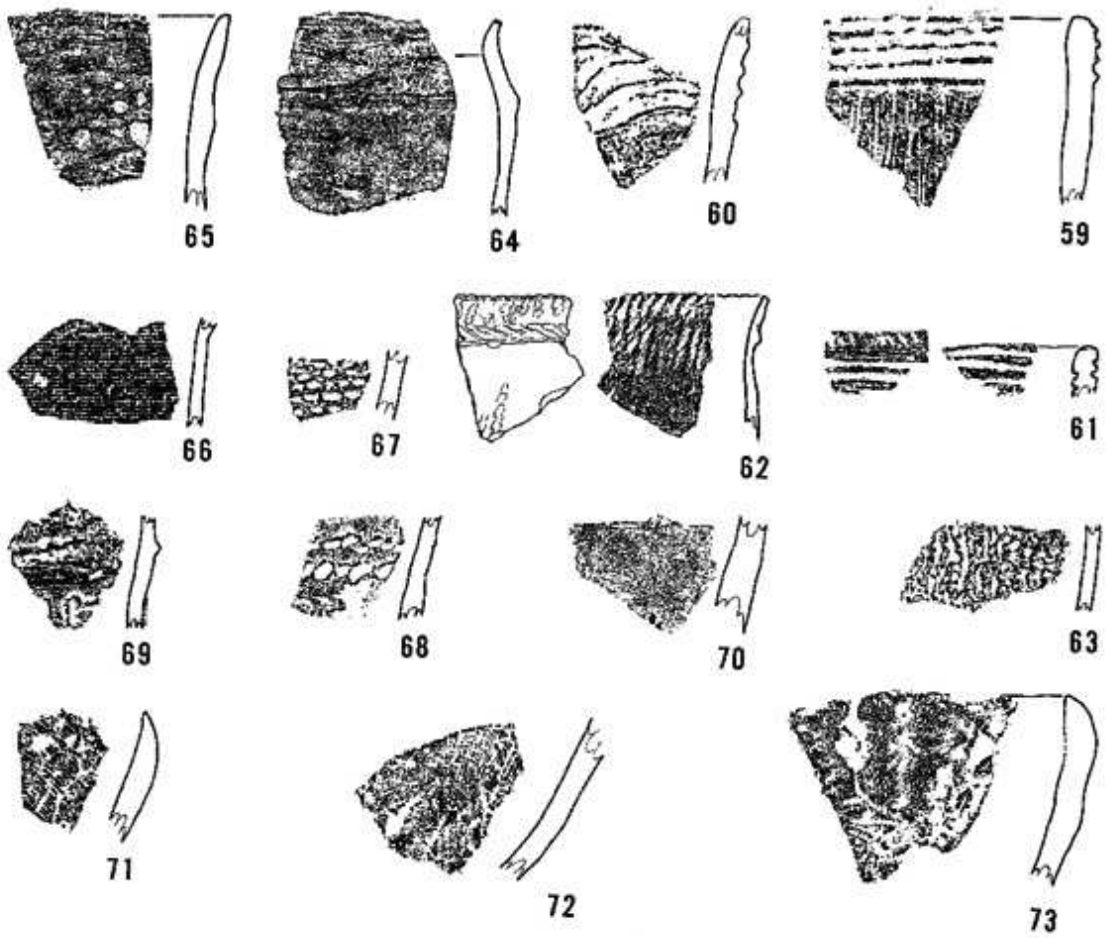
第９図　遺構実測図（縄文時代早期の土器）Ｓ＝1／3



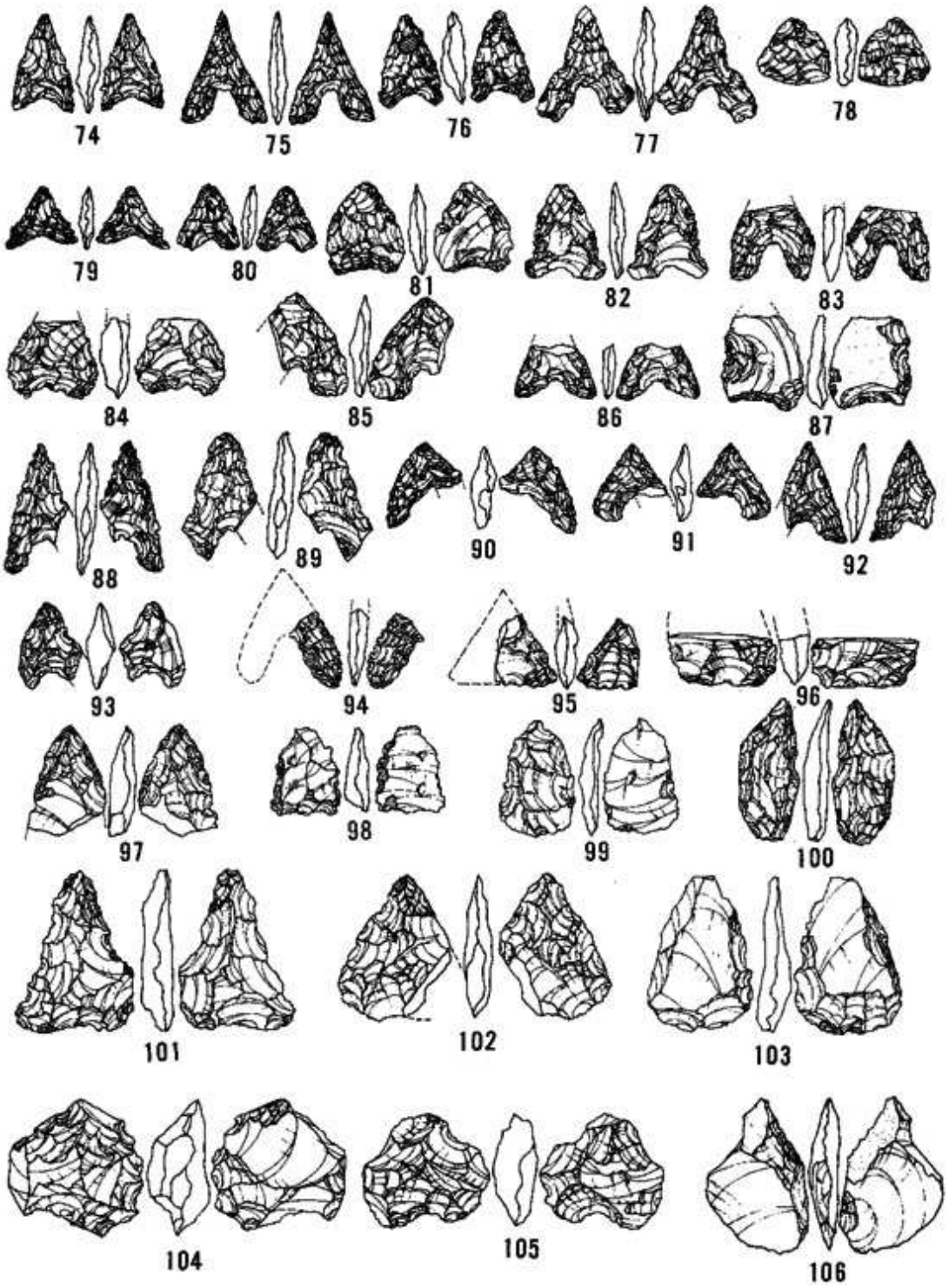
第10図　遺構実測図（縄文時代早期の土器）S＝1／3



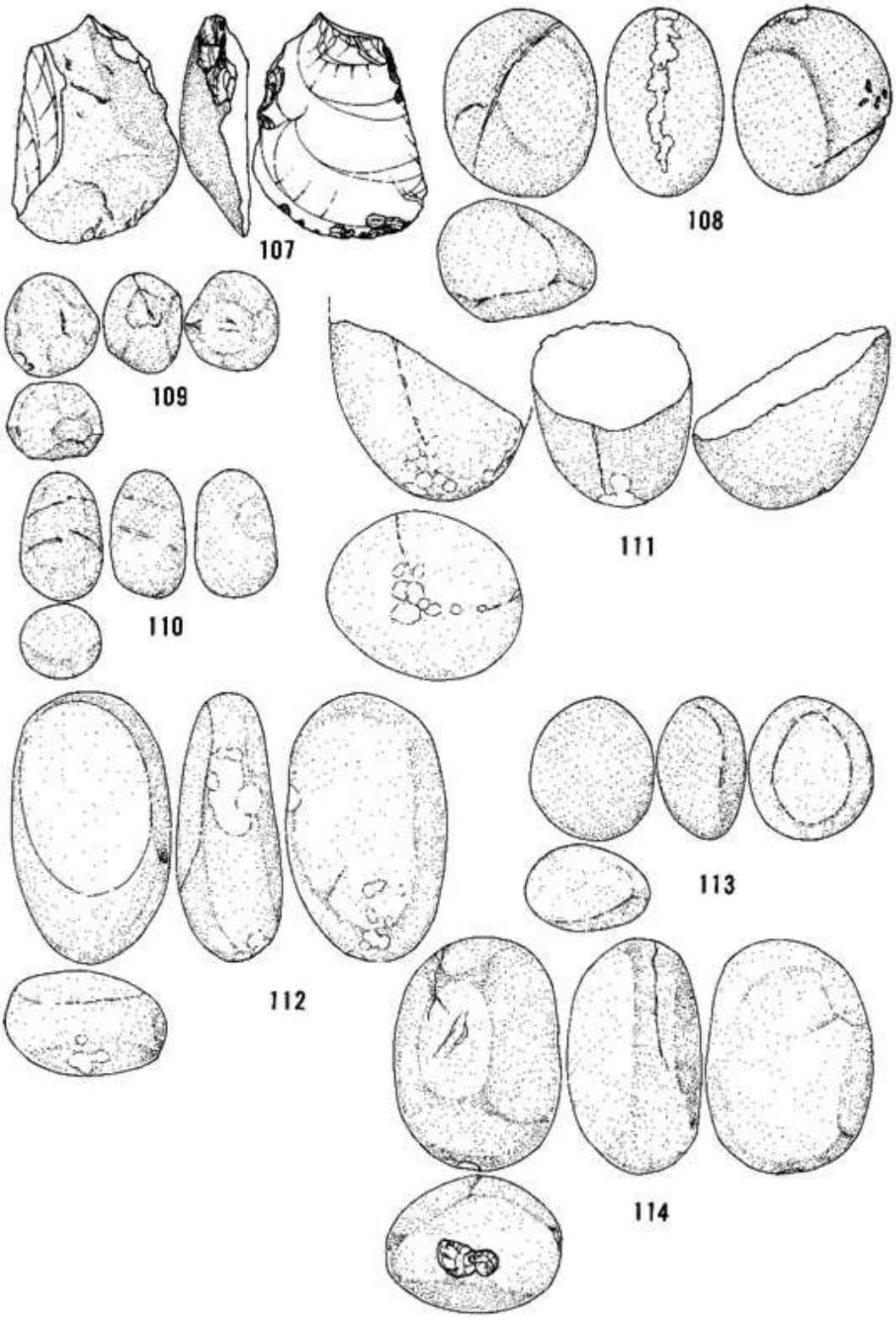
第11図　遺構実測図（縄文時代早期の土器）S＝1／3



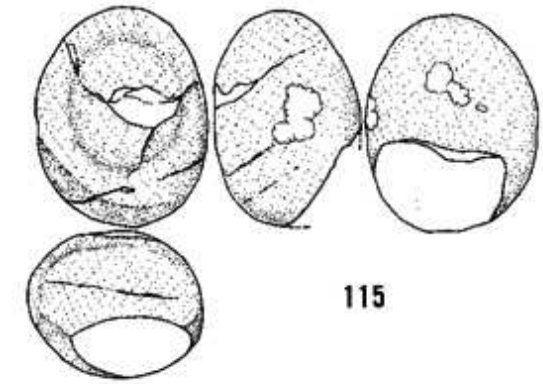
第12図　遺構実測図（縄文時代前期以降の土器）S＝1／3



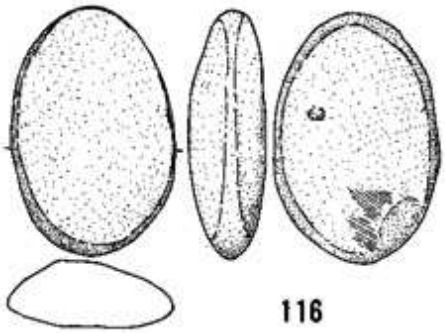
第13図　遺構実測図（石器）S＝2／3



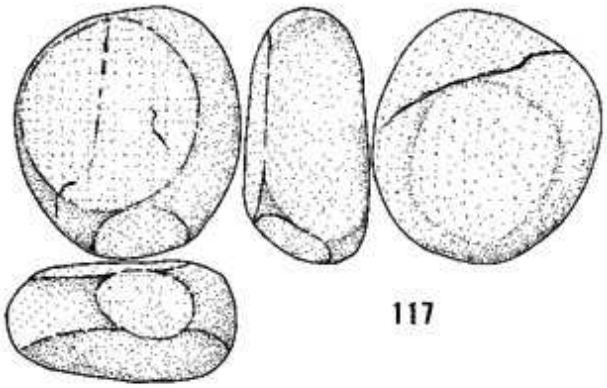
第14図　遺構実測図（石器）S＝1／3



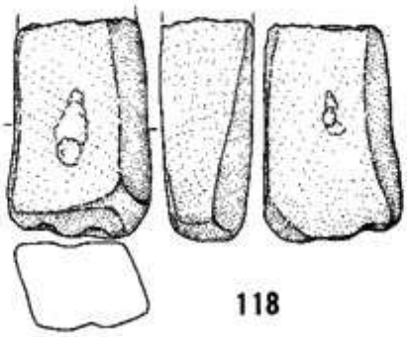
115



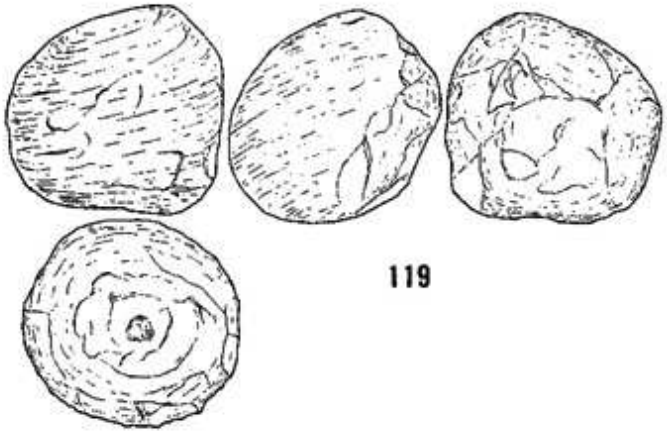
116



117

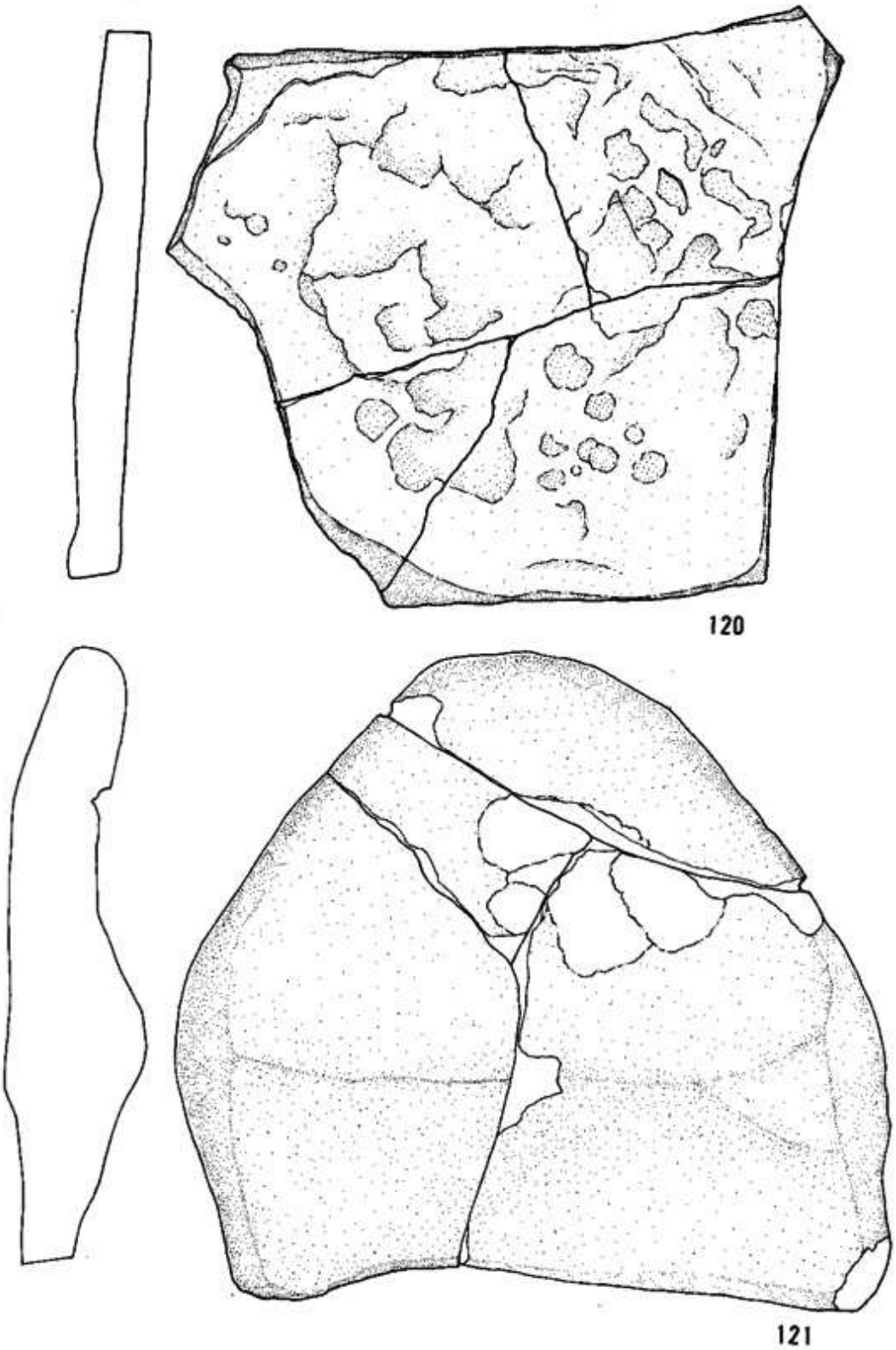


118



119

第15図　遺構実測図（石器）S＝1／3



第16図　遺構実測図（石器）S＝1／3

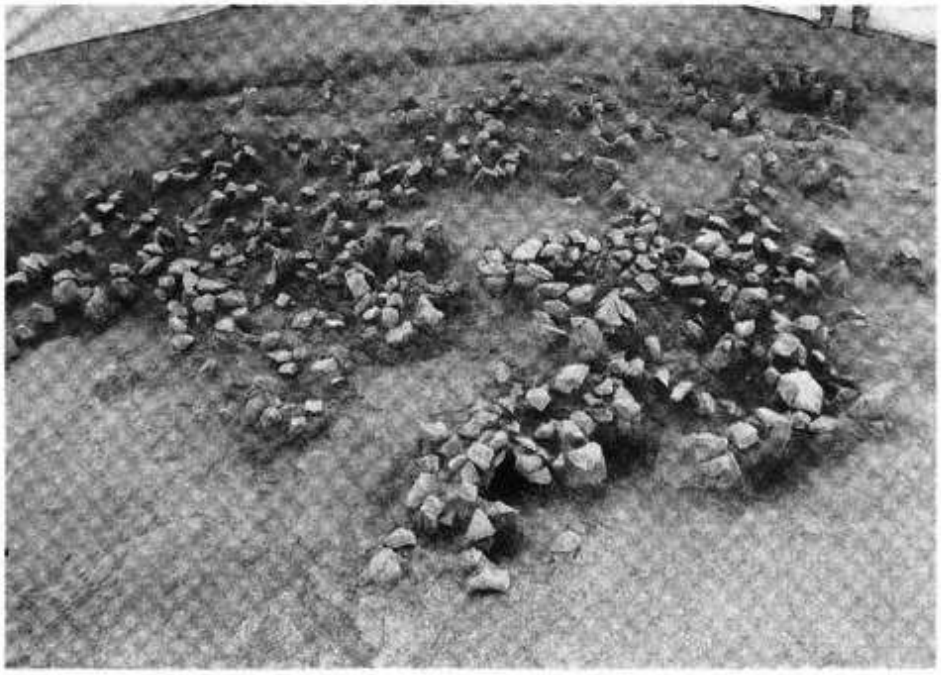
調査着工後全景（北から）

ＳＩ－０２　検出状況

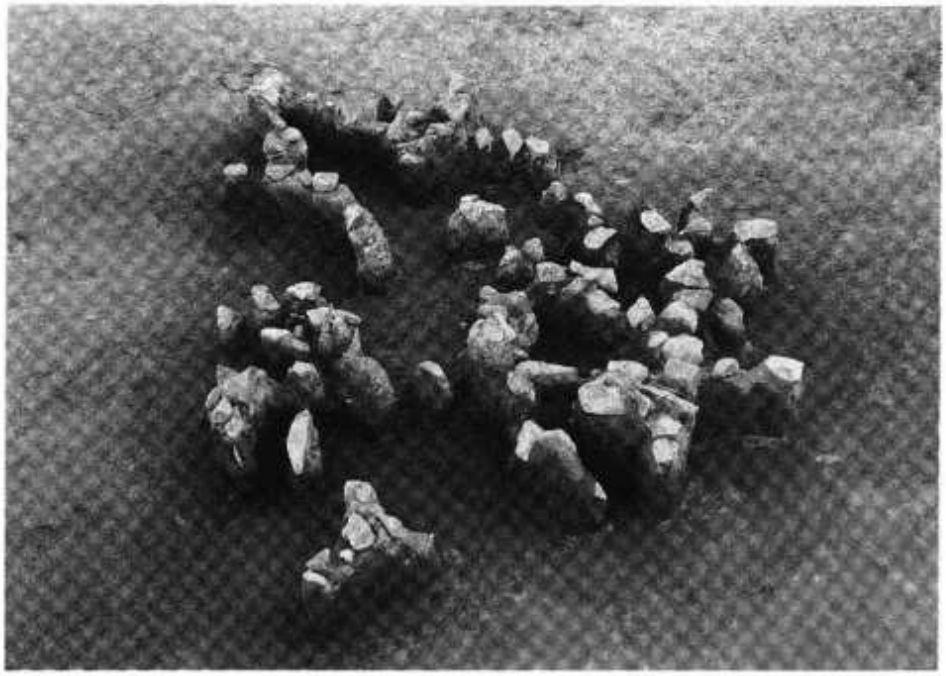
ＳＩ－０１　検出状況

ＳＩ－０１　完堀状況

ＳＩ－０６　検出状況

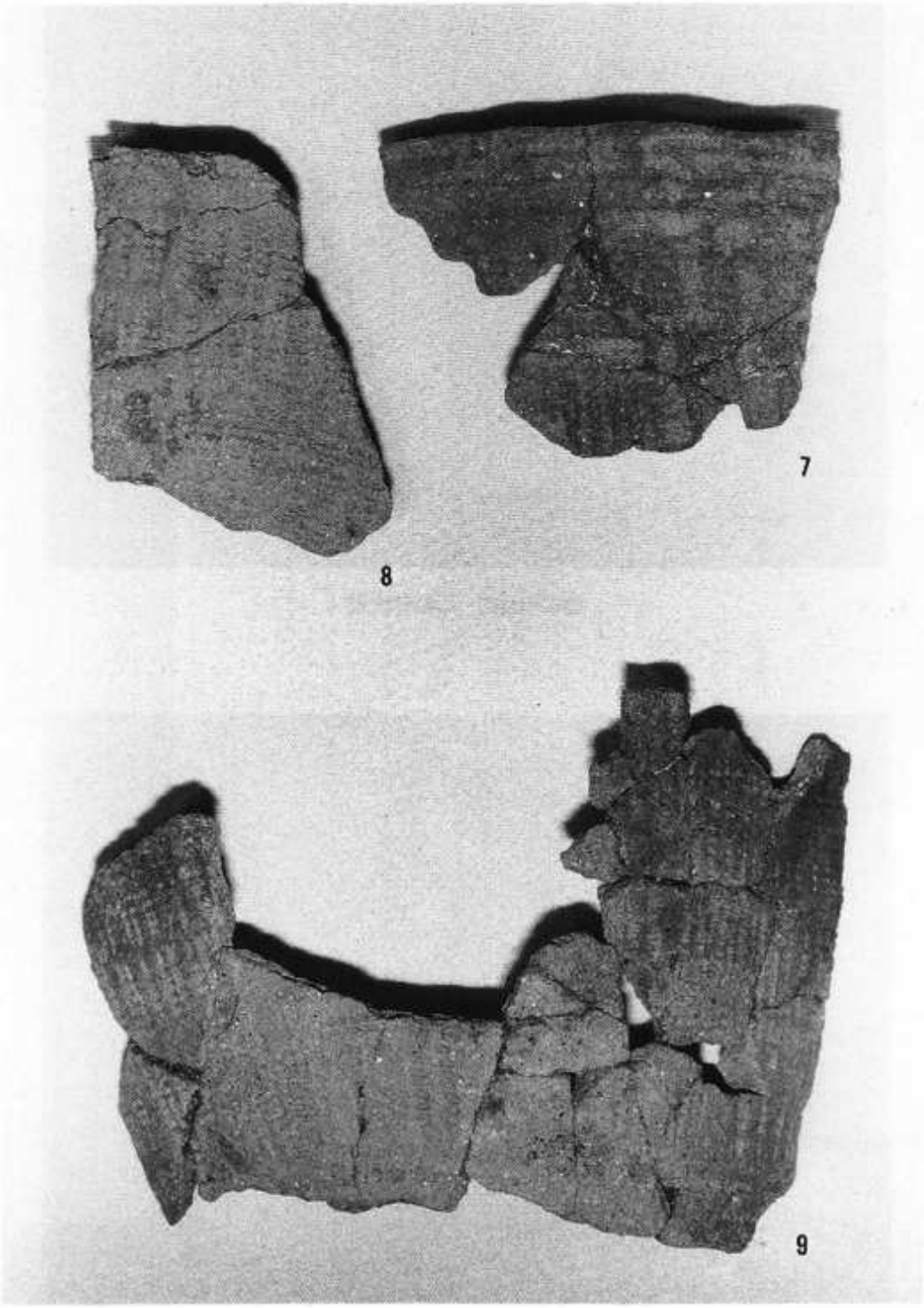


ＳＩ－０４・０５　検出状況

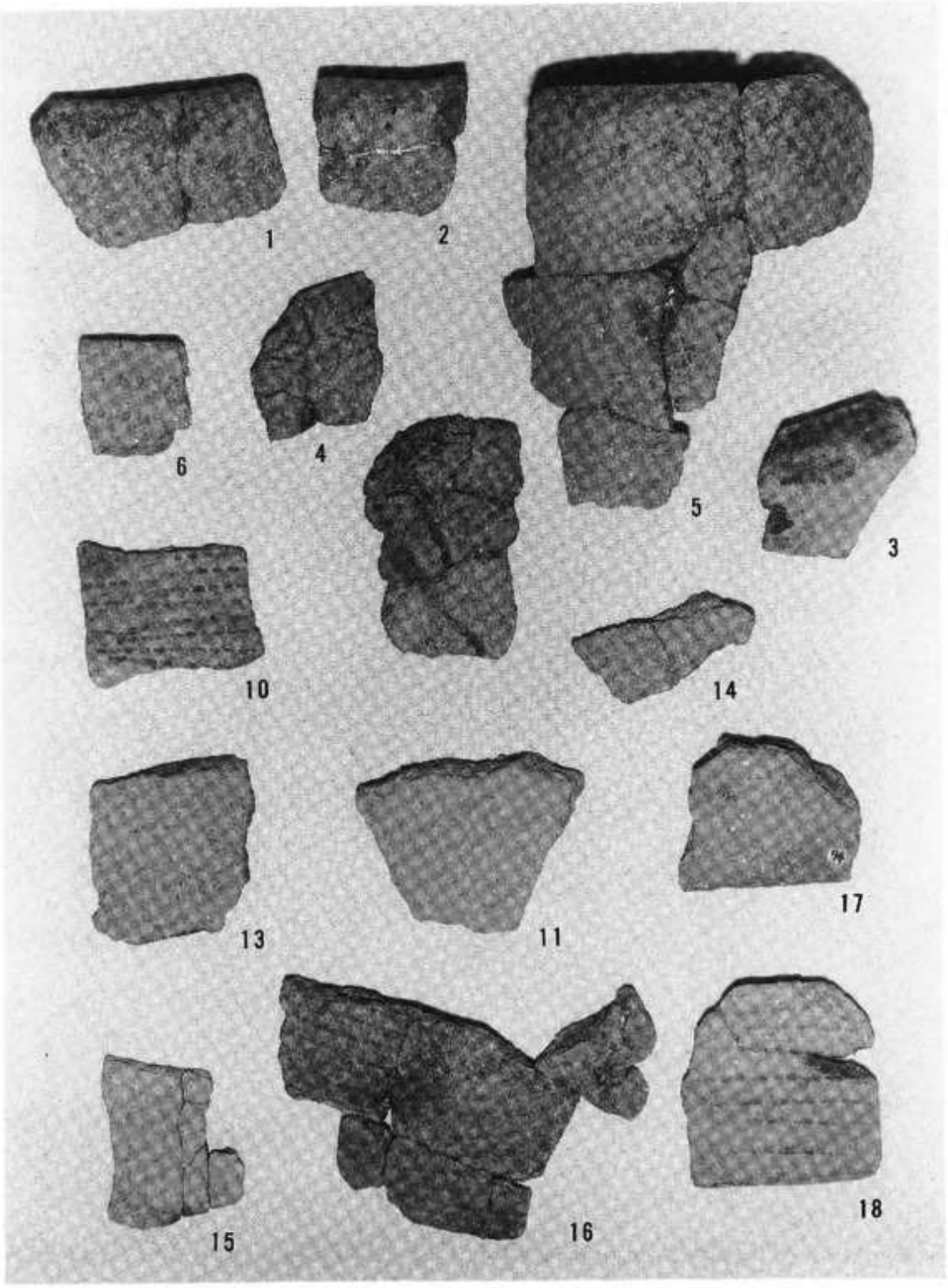


S I－0 7　検出状況

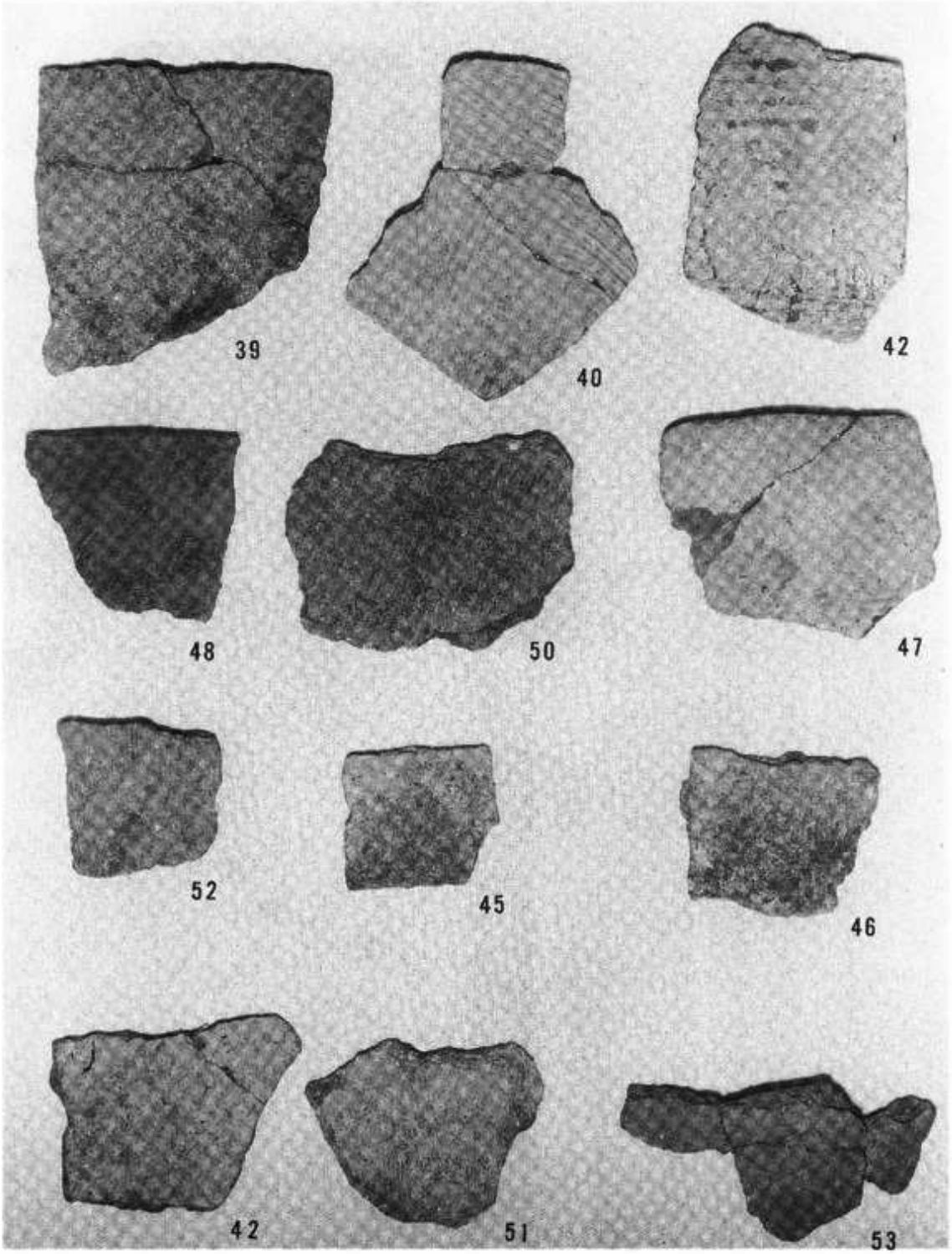
S I－0 3　検出状況



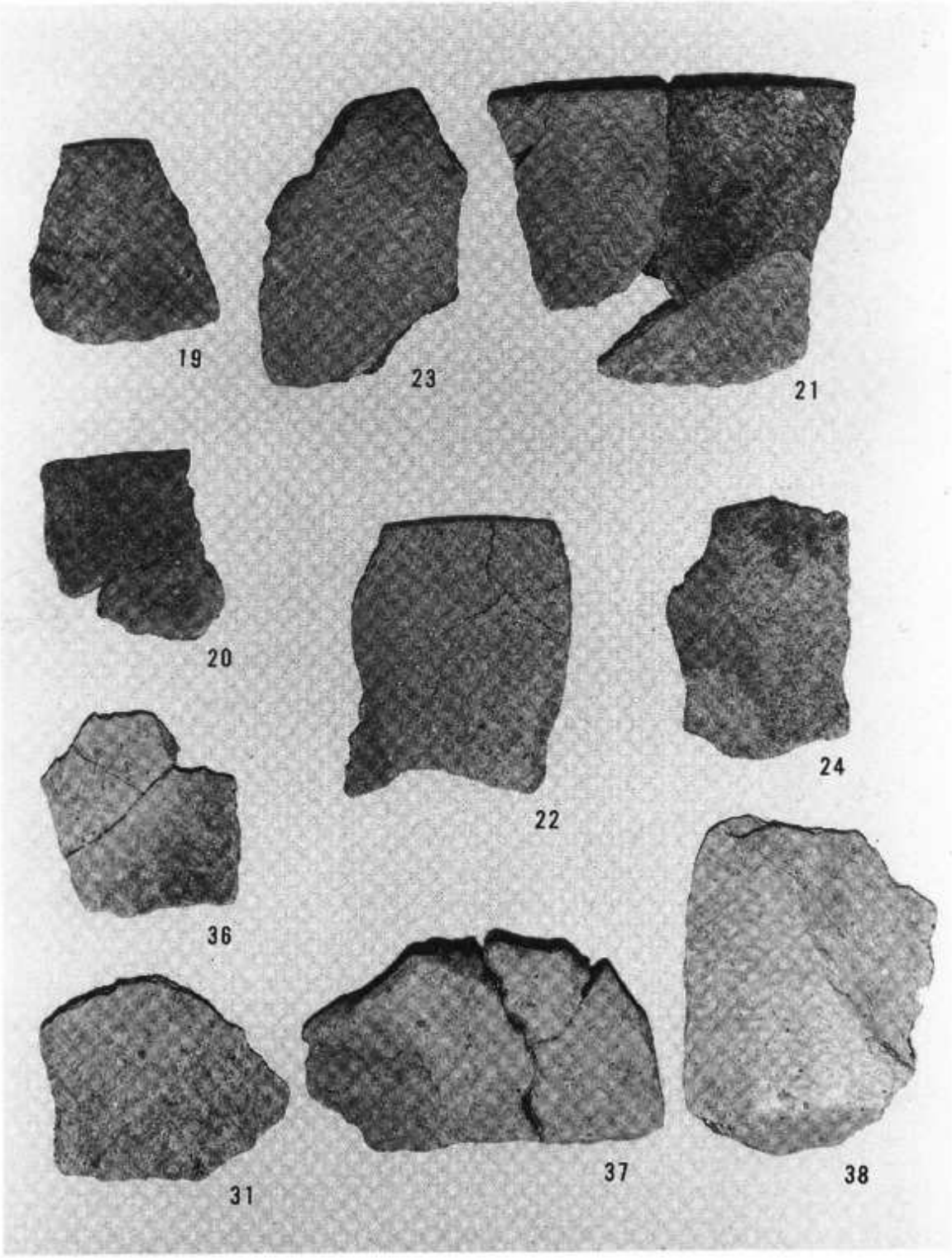
縄文時代早期の出土遺物



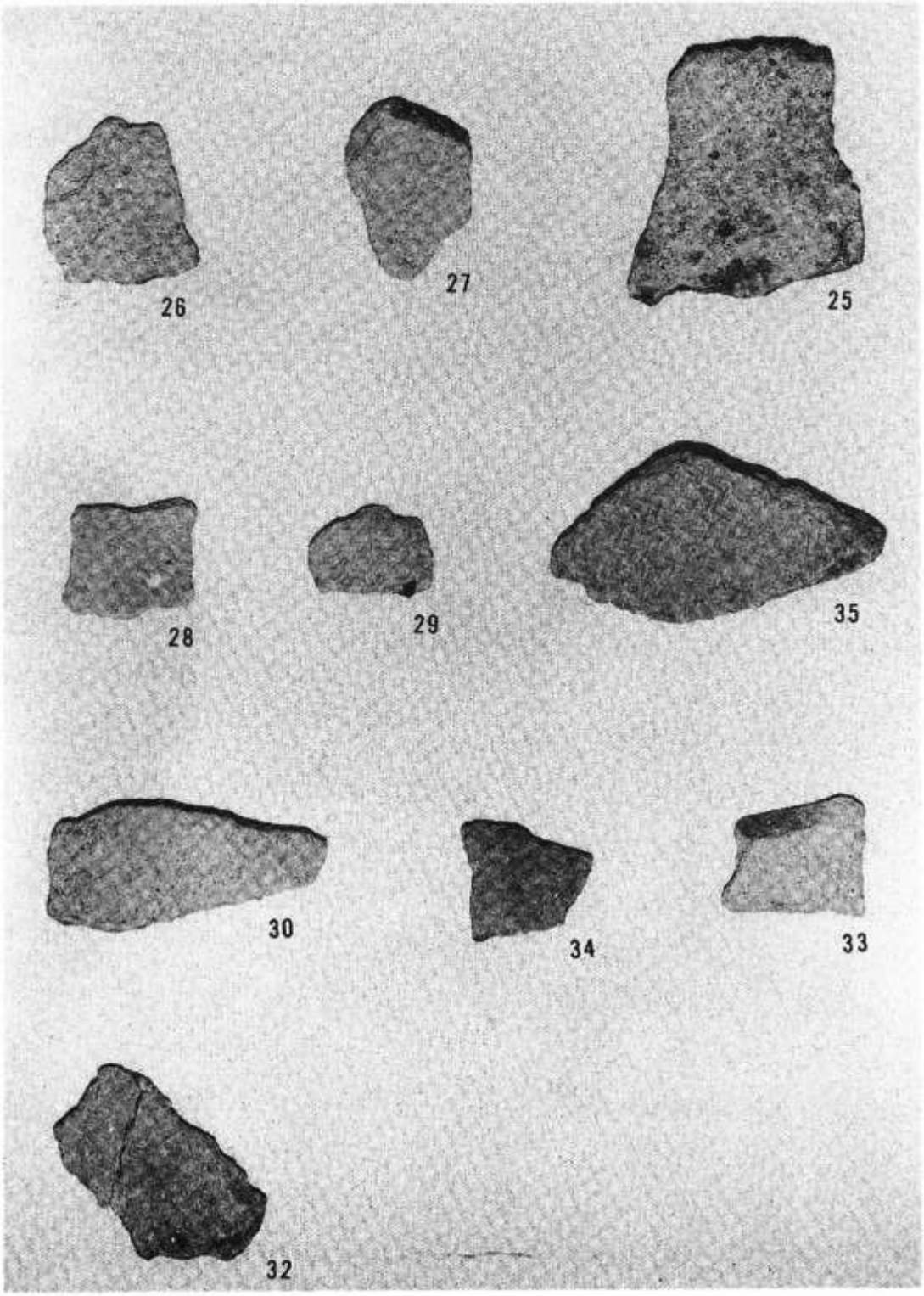
縄文時代早期の出土遺物



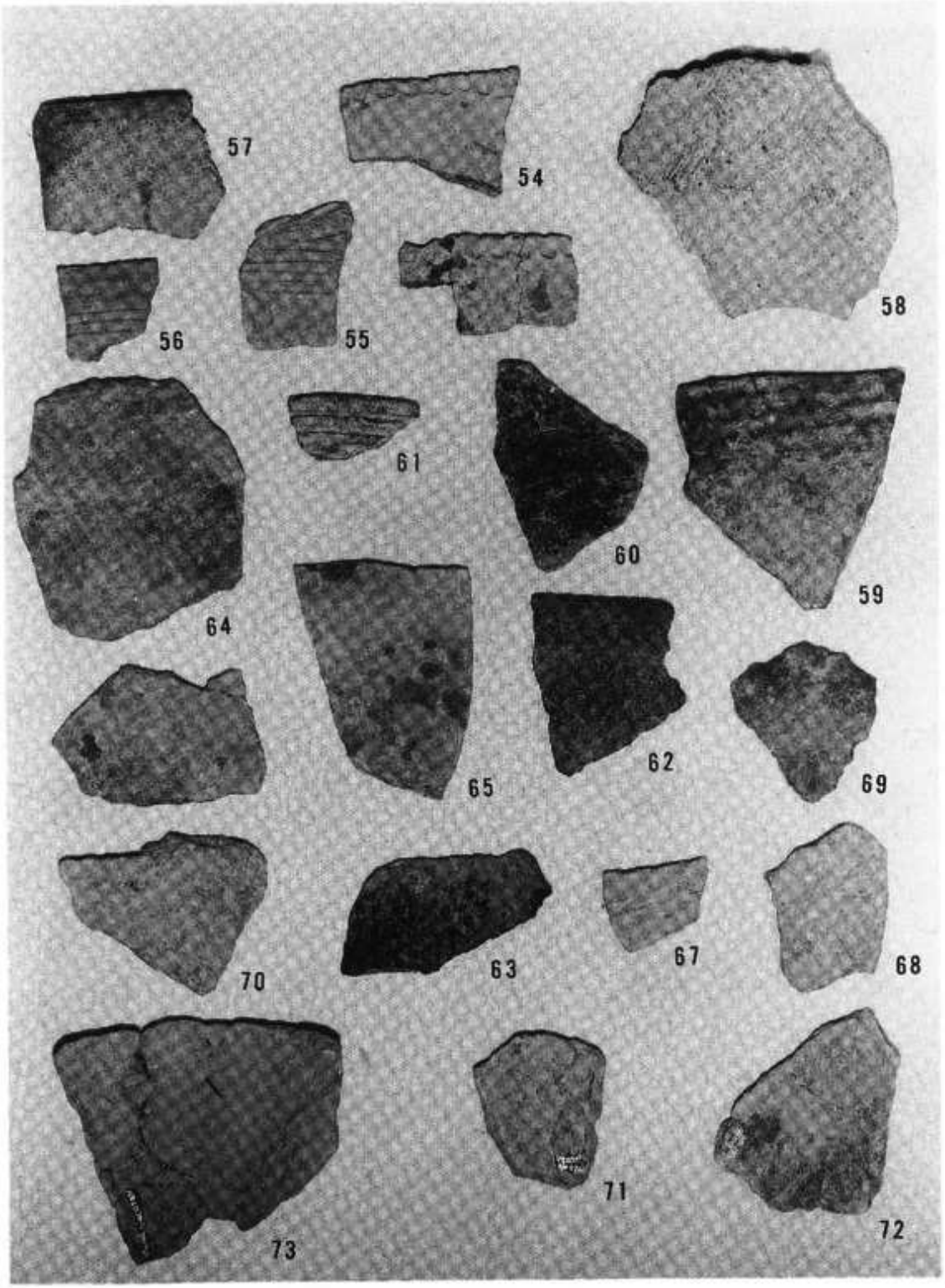
縄文時代早期の出土遺物



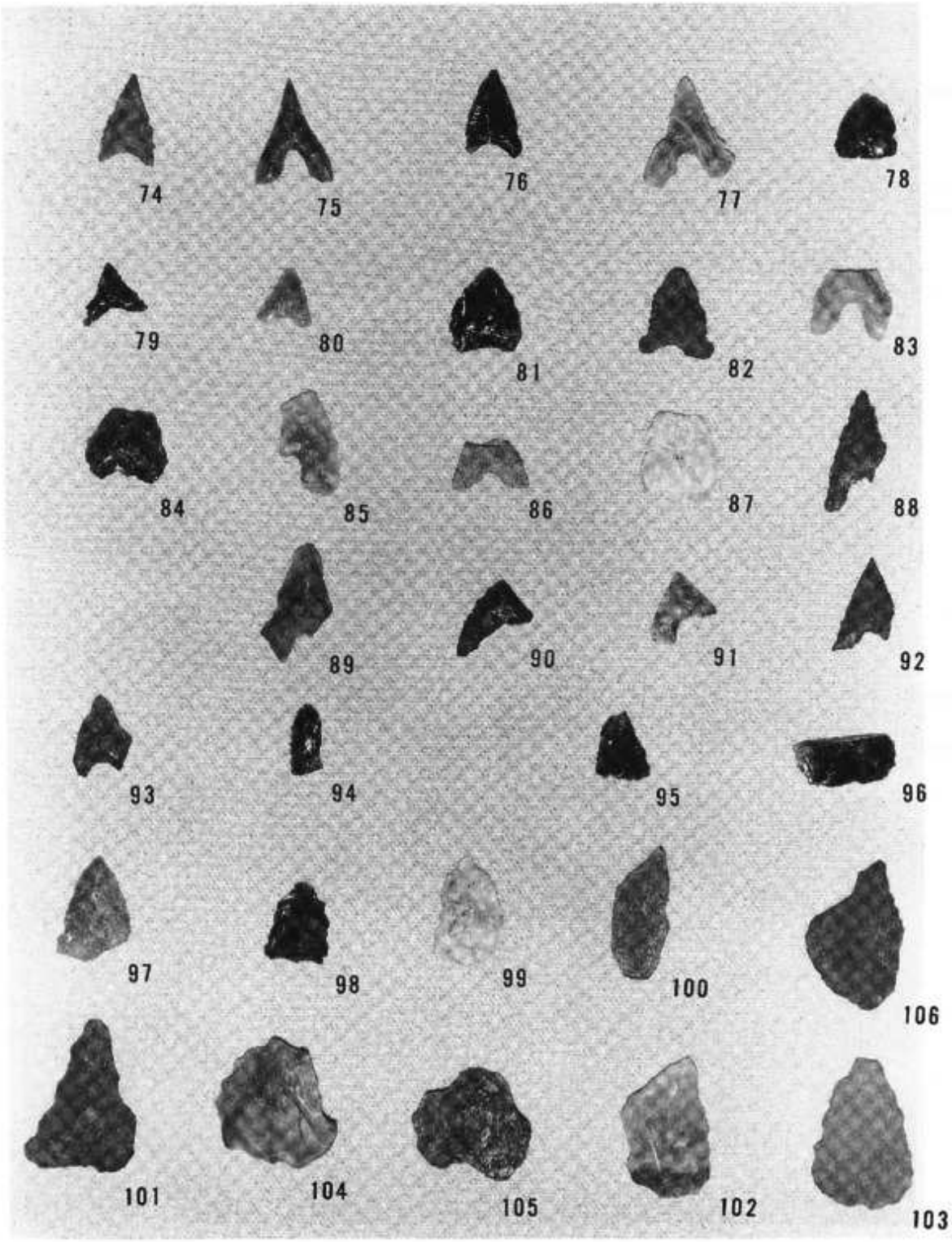
縄文時代早期の出土遺物



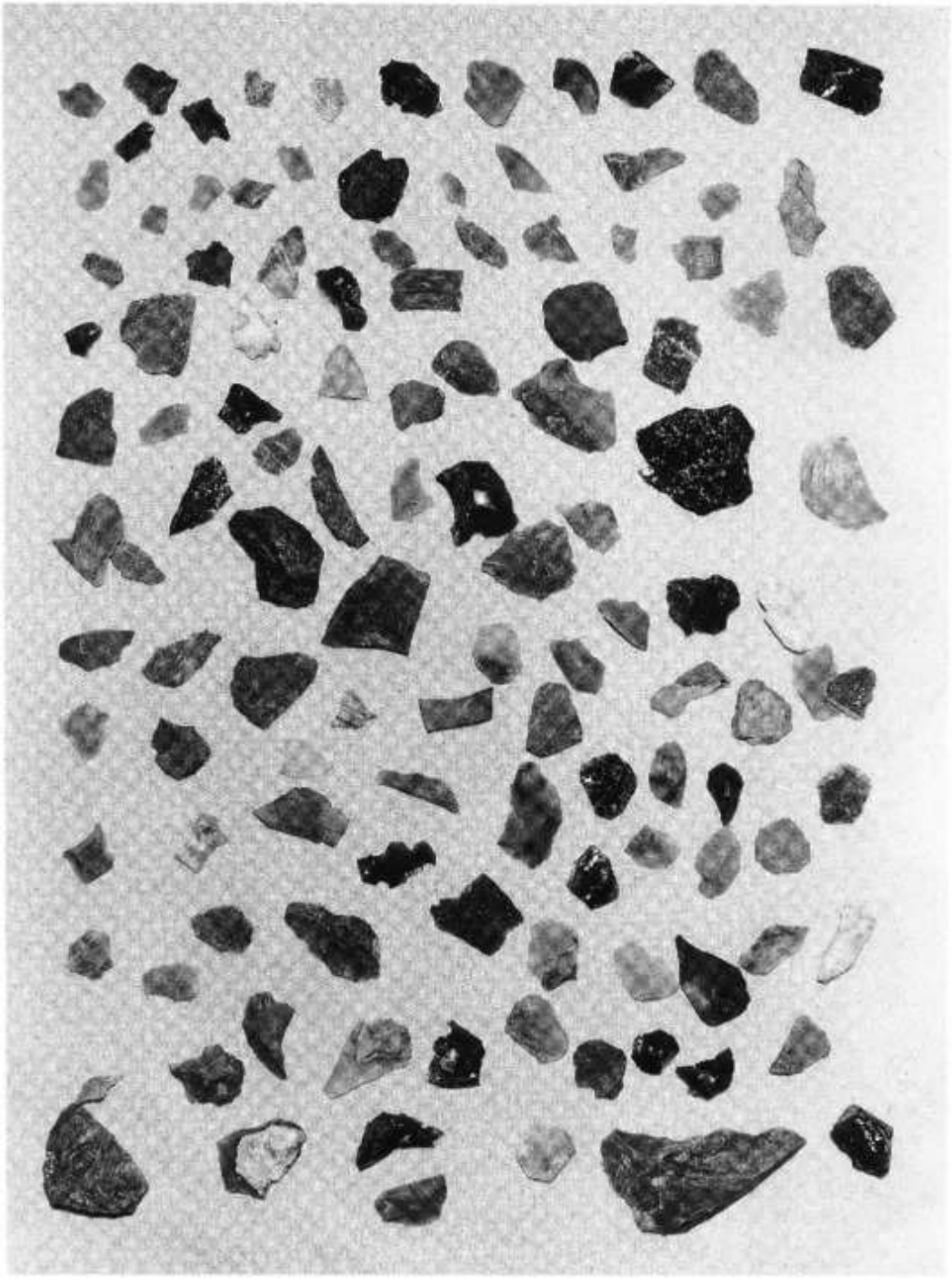
縄文時代早期の出土遺物



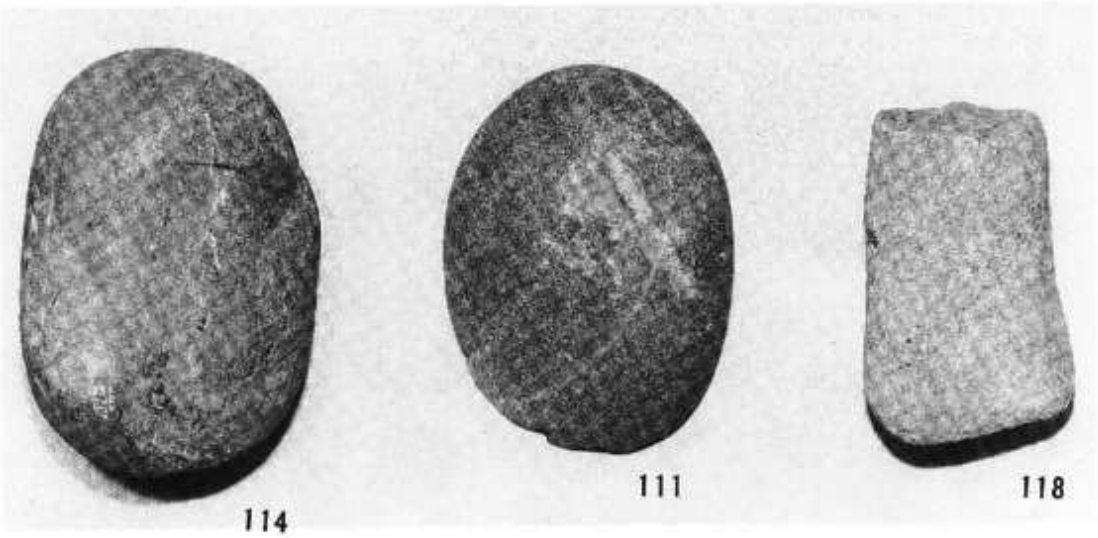
縄文時代前期以降の出土遺物

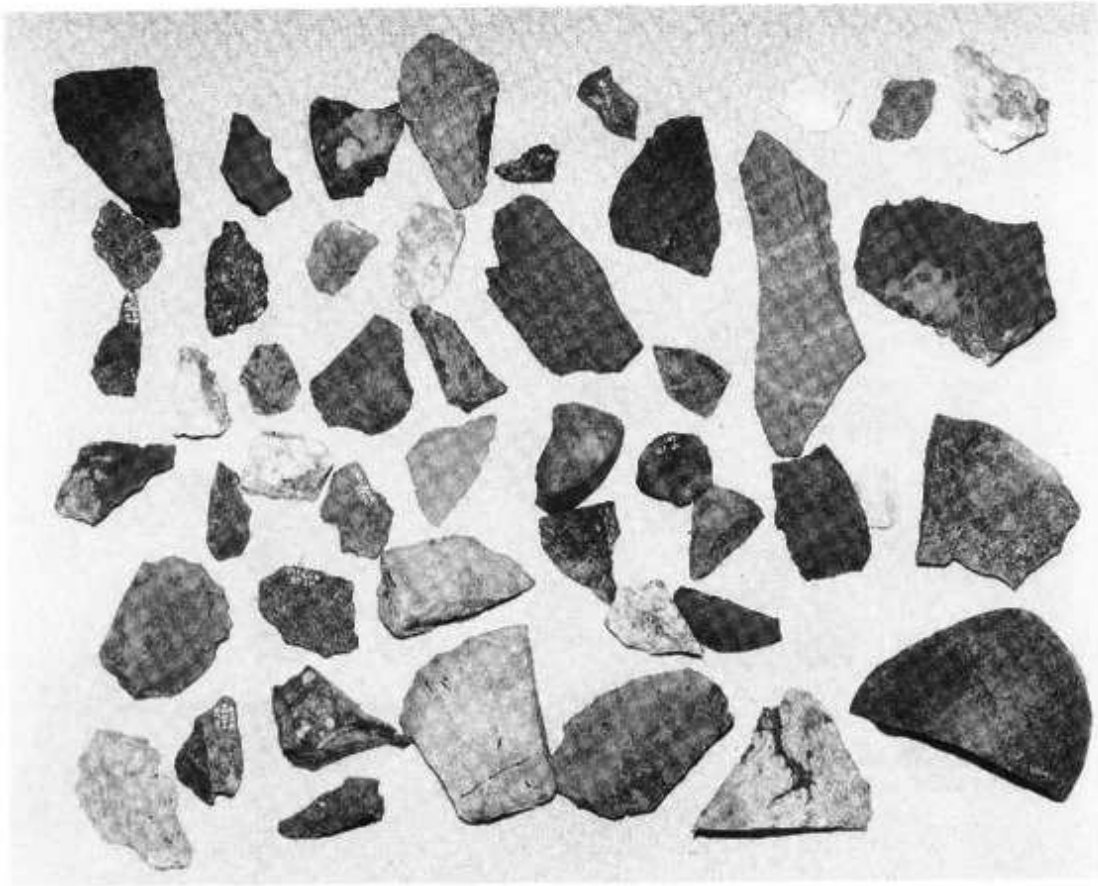


縄文時代の出土遺物（石器）

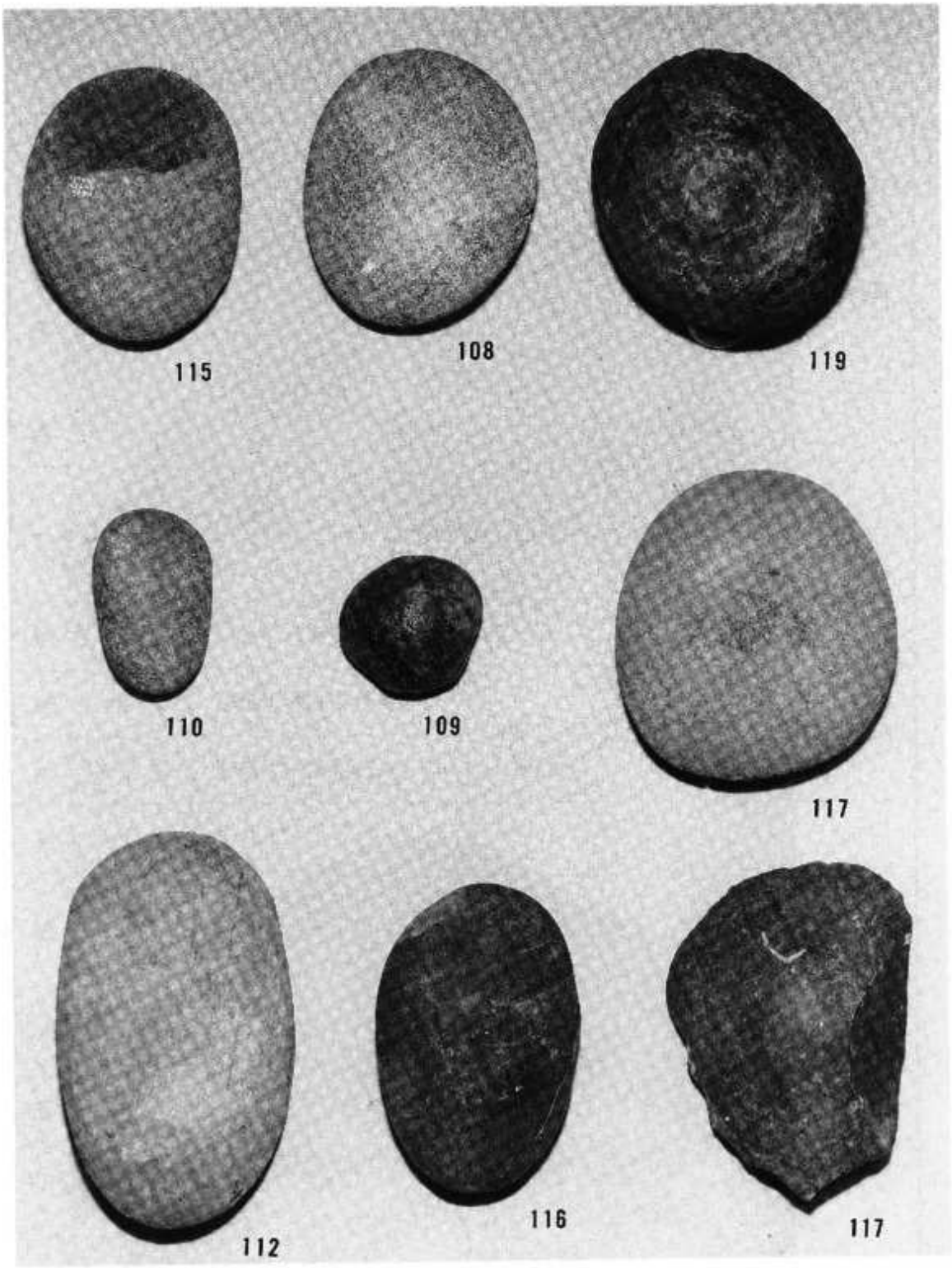


縄文時代の出土遺物（石器）

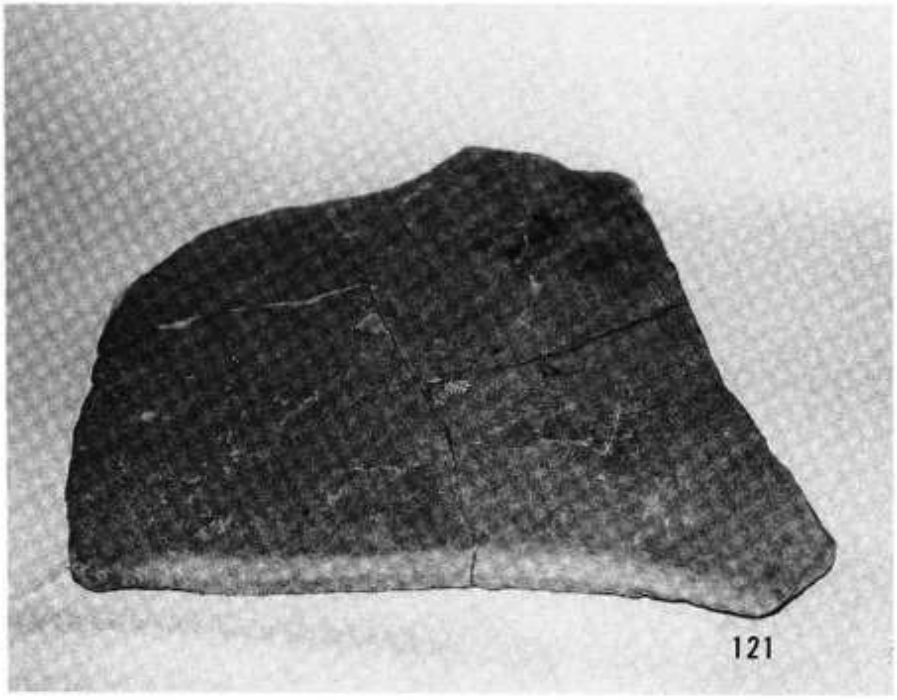


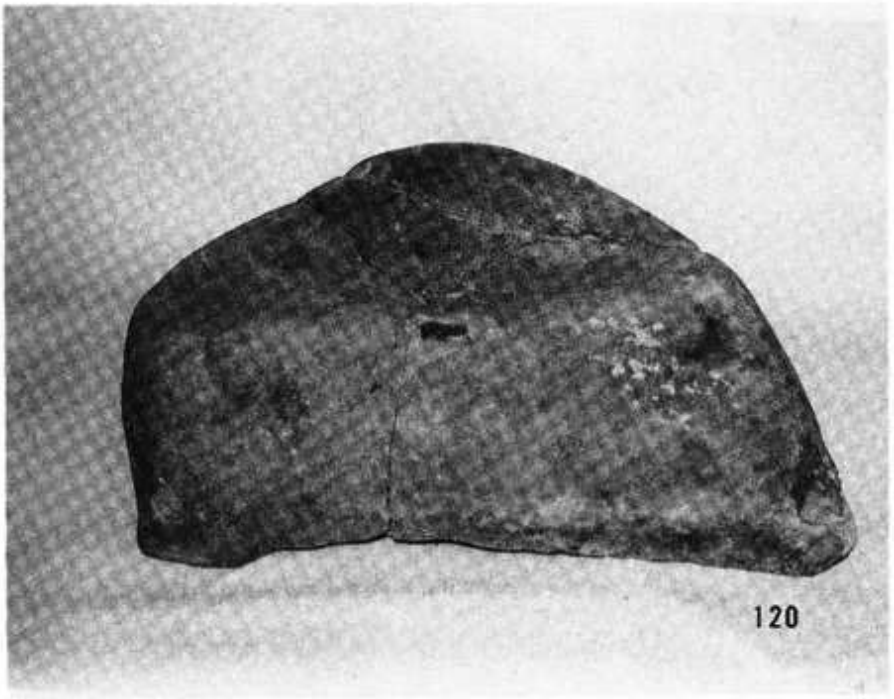


縄文時代の出土遺物（石器）



縄文時代の出土遺物（石器）





縄文時代の出土遺物（石器）

報告書抄録

フリガナ	ナガサコダイニ　イセキ
書名	永迫第2遺跡
副書名	平成6年度県営農地保全整備事業八重地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	田野町文化財調査報告書
シリーズ番号	第21集
編著者名	田野町教育委員会　森田浩史
編集機関	田野町教育委員会
所在地	宮崎県宮崎郡田野町甲２８１８番地
発行年	１９９６年3月３１日

遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積
		市町村	遺跡番号				
永迫第2遺跡	田野町八重		３００９			1994年9月12日～11月30日	10,000㎡

種別	主な時代	主な遺跡	主な遺物	特記事項
集落跡	縄文時代早期（その他同前・中・晩期、平安時代）	集落遺構7基（縄文時代早期）	縄文土器 早期（下剥峰式・押型文） ほか各時期・時代少量	調査員 白岩　修

田野町文化財調査報告書　第21集
永迫第２遺跡

発行年月　１９９６年３月
編集・発行　田野町教育委員会
印　　刷　㈱昭和印刷